目　　次

目次
平成 27 年度　学年暦
本学大学院の使命・校章・校歌
沿革
大学院設置の趣旨
学則等
　東京家政学院大学大学院学則
　東京家政学院大学学則
　東京家政学院大学学位規則
　東京家政学院大学大学院研究科履修規則
　別表　生活文化専攻の履修コース
授業計画
大学院履修案内等
　大学院履修案内
　交通機関が不通になった場合等の授業の取扱い
　大学から学生へのスピーディな情報伝達サービス
　修士論文又は修士作品の提出に関する手続き等
　修士論文又は修士作品の審査及び最終試験
　平成 26 年度修士論文又は修士作品の提出に関する日程
　修士論文又は修士作品の形式等について
　専修免許状について
　臨床発達心理士受験資格取得について
　各種証明書の交付手続き等について
　大学院生共同研究室の利用について
学内諸規則
　東京家政学院大学大学院研究生規則
　東京家政学院大学科目等履修生規則
　東京家政学院大学研究生規則
　東京家政学院大学学生交流規則
　東京家政学院大学学生懲戒手続規則
　東京家政学院大学大学院ティーチング・アシスタントに関する規程
　東京家政学院大学大学院長期履修学生規則
　東京家政学院大学大学院修了延期運用規程
大学院教員名簿
キャンパス案内

平成27年度　学 年 暦

前 期

	日	月	火	水	木	金	土	週	行　事
27年 4月				1	2	3	4	1	1日　学年開始 3日　入学式 4日・6日・7日 オリエンテーション 8日　前期授業開始 16日・17日 オリエンテーションキャンプ （通常授業休業）
	5	6	7	8	9	10	11	2	
	12	13	14	15	16	17	18	3	
	19	20	21	22	23	24	25	4	
	26	27	28	29	30			5	
5月						1	2	5	21日　創立記念日 （通常授業休業）
	3	4	5	6	7	8	9	6	
	10	11	12	13	14	15	16	7	
	17	18	19	20	21	22	23	8	
	24	25	26	27	28	29	30	9	
	31								
6月		1	2	3	4	5	6	10	
	7	8	9	10	11	12	13	11	
	14	15	16	17	18	19	20	12	
	21	22	23	24	25	26	27	13	
	28	29	30					14	
7月				1	2	3	4	14	
	5	6	7	8	9	10	11	15	
	12	13	14	15	16	17	18	16	18日　月曜日の振替授業
	19	20	21	22	23	24	25	17	
	26	27	28	29	30	31		18	30日　前期授業終了 31日～8月7日 前期定期試験
8月							1	18	
	2	3	4	5	6	7	8	19	8日～9月20日　夏期休業
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30	31							
9月			1	2	3	4	5		
	6	7	8	9	10	11	12		
	13	14	15	16	17	18	19		17日・18日 後期オリエンテーション
	20								

後 期

	日	月	火	水	木	金	土	週	行　事
9月		21	22	23	24	25	26	1	21日　後期開始 24日　後期授業開始
	27	28	29	30				2	
10月					1	2	3	2	
	4	5	6	7	8	9	10	3	10日　月曜日の振替授業
	11	12	13	14	15	16	17	4	
	18	19	20	21	22	23	24	5	
	25	26	27	28	29	30	31	6	
11月	1	2	3	4	5	6	7	7	1日　学内入構禁止
	8	9	10	11	12	13	14	8	12日～15日　大学祭(KVA祭) （通常授業休業）
	15	16	17	18	19	20	21	9	21日　月曜日の振替授業
	22	23	24	25	26	27	28	10	
	29	30						11	
12月			1	2	3	4	5	11	5日　学内入構禁止
	6	7	8	9	10	11	12	12	
	13	14	15	16	17	18	19	13	
	20	21	22	23	24	25	26	14	24日　月曜日の振替授業 25日　補講日 26日～1月5日　冬期休業
	27	28	29	30	31				
28年 1月						1	2		
	3	4	5	6	7	8	9	15	9日　学内入構禁止 （町田キャンパス）
	10	11	12	13	14	15	16	16	16日・17日　学内入構禁止 （町田キャンパス）
	17	18	19	20	21	22	23	17	23日　学内入構禁止 26日　後期授業終了
	24	25	26	27	28	29	30	18	25日・27日～2月2日 後期定期試験
	31							19	
2月		1	2	3	4	5	6	19	1日・3日　学内入構禁止
	7	8	9	10	11	12	13		
	14	15	16	17	18	19	20		17日　学内入構禁止
	21	22	23	24	25	26	27		
	28	29							
3月			1	2	3	4	5		
	6	7	8	9	10	11	12		10日　学内入構禁止
	13	14	15	16	17	18	19		18日大学卒業式・ 大学院修了式
	20	21	22	23	24	25	26		25日～31日　春期休業
	27	28	29	30	31				

・国民の祝日及び休日は、通常授業は行いません。
・▨は、定期試験期間をあらわす。
・□は、授業休業期間をあらわす。
・⬚は、月曜日の振替授業を行う。
・土曜日は月曜日の振替授業のほか補講並びに行事等を行う。

東京家政学院大学大学院学則

第 1 章　総　則

（目的）

第１条　東京家政学院大学大学院（以下「大学院」という。）は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、文化の進展に寄与することを目的とする。

２　本学人間生活学研究科は、ＫＶＡ精神に基づき、人間生活に関わる総合的かつ専門的知識及び技術を研究教育し、現代社会が直面する個人、家族及び地域をめぐる諸問題はもとより、地球規模の諸課題に対しても実践的に貢献できる有為な人材を養成することを目的とする。

（研究科及び研究科長）

第２条　大学院に、次の研究科を置く。

人間生活学研究科

２　研究科に研究科長を置き、大学院担当教授のうちから学長が選考する。

３　研究科長は、研究科に関する事項を掌理する。

４　研究科長の任期は２年とし、再任を妨げない。

（課程）

第３条　人間生活学研究科に、修士課程を置く。

２　修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

（専攻及び収容定員等）

第４条　大学院研究科の専攻及び収容定員等は、次のとおりとする。

研　究　科	課　程	専　攻	入学定員	収容定員
人間生活学研究科	修士課程	生活文化専攻	１０名	２０名

（標準修業年限及び在学期間）

第５条　修士課程の標準修業年限は、２年とする。

２　前項の規定にかかわらず、主として実務経験を有すると認めるものに対しては、標準修業年限を１年以上２年未満の在学期間とすることができる。

３　修士課程には、休学期間を除き４年を超えて在学することはできない。

（長期履修）

第５条の２　学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて長期にわたり計画的に教育課程を履修することを希望するときは、その計画的な履修を認めることができる。

２　前項の規定により計画的な履修を認められた学生（以下「長期履修学生」という。）に関する必要事項は、別に定める。

３　長期履修学生の在学期間は、別に定める。

（科目等履修生の在学期間）

第６条　第 20 条に規定する科目等履修生の在学期間については、研究科会議の議を経て、学長が別に定める。

第 2 章　教育課程、授業科目、単位及び履修方法

（教育課程）

第６条の２　大学院は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。

（教育方法）

第７条　大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行う。

（授業科目）

第８条　大学院研究科における授業科目及び単位数は、別表第１のとおりとする。

（単位の計算基準）

第９条　履修単位数は、次の計算基準によって行う。

(1) 講義は、毎週１時間 15 週をもって１単位とする。

(2) 演習は、毎週２時間 15 週をもって１単位とする。

（履修方法）

第 10 条　研究科の定めるところにより、30 単位以上を修得するものとする。

２　履修科目の選択に当たっては、あらかじめ研究指導担当教員の指導を受けなければならない。

３　学生は、各学年初めに履修する科目を選定し、研究科長に届け出るものとする。

（他大学における授業科目の履修等）

第 11 条　大学院は、教育上有益と認めるときは、他大学の大学院(外国の大学の大学院を含む。)とあらかじめ協議の上、学生に当該他大学の大学院授業科目を履修させることができる。

２　前項の規定により履修した授業科目の単位は、10 単位を超えない範囲で大学院において修得したものとみなすことができる。

第 3 章　課程修了及び学位

（修了要件）

第12条　修士課程の修了要件は、大学院に２年以上在学し所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程の目的に応じ、修士論文、修士作品又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、大学院に１年以上在学すれば足りるものとする。

（修了の延期）

第 12 条の２　前条の要件を満たした者であっても、在学期間の延長を希望する者については、願い出により、学長は修了の認定を延期することができる。

２　前項の修了延期に関する事項は、別に定める。

（学位）

第 13 条　修士課程を修了した者には、次の学位を授与する。

研　究　科	専　攻	課　程	学　位
人間生活学研究科	生活文化専攻	修士課程	修 士 （ 人 間 生 活 学）

２　学位に関する必要な事項は、別に定める。

第 4 章　入学、休学、転学、再入学、留学、退学及び除籍

（入学）

第 14 条　入学の時期は、学年又は学期の初めとする。

（入学資格）

第 15 条　大学院に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 83 条第 1 項に定められた大学を卒業した者

(2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者

(5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了生が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(6) 修業年限が４年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時数が 3,400 時間以上である専修学校の専門課程で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

(7) 文部科学大臣の指定した者

(8) 大学に３年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了し、又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、大学院が指定する科目、単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(9) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者

（入学の出願、入学者の選考、入学手続き、入学の許可）

第 16 条　大学院への入学の出願、入学者の選考、入学手続、入学の許可については、東京家政学院大学学則（以下「大学学則」という。）の規定を準用する。

（再入学･転入学）

第 17 条　大学院に再入学又は転入学を志願する者については、研究科会議の議を経て、選考の上許可することができる。

(1) 大学院を中途退学した者又は除籍（授業料及び施設設備資金を滞納し、督促を受けても納付しない者に限る。）された者が、再入学を願い出たとき

(2) 他の大学院に在学する者が、大学院に転入学を願い出たとき

２　前項第２号の規定により転入学を志願するときは、在籍する大学院の学長又は研究科長の許可書を願書に添付しなければならない。

３　第１項により入学を許可された者の修学年限等に関する事項は、別に定める。

（休学、転学、再入学、留学、退学及び除籍）

第 18 条　大学院の休学、転学、再入学、留学、退学及び除籍については、大学学則の規定を準用する。

第 5 章　賞　罰

（賞罰）

第 19 条　学生の賞罰については、大学学則の規定を準用する。

第 6 章　科目等履修生、外国人留学生及び特別聴講学生

（科目等履修生）

第 20 条　大学院所定の授業科目のうち１科目又は複数科目の履修を志願する者があるときは、選考の上研究科会議の議を経て、科目履修を認めることができる。

２　科目等履修生に対する単位の授与については、大学学則の規定を準用する。

３　科目等履修生として入学を志願する者は、所定の願書その他必要書類を検定料と共に指定の期日までに提出しなければならない。

（外国人留学生）

第 21 条　外国人で、大学において教育を受けることを目的として入国し、大学院に入学を志願する者があるときは、選考の上研究科会議の議を経て、外国人留学生として入学を許可することができる。

（特別聴講学生）

第 22 条　他大学（外国の大学を含む。）の大学院で、大学院において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他大学との協議に基づき、特別聴講学生として履修を許可することができる。

（科目等履修生、外国人留学生及び特別聴講学生に関する規定）

第 23 条　科目等履修生、外国人留学生及び特別聴講学生に関しては、別に定めるもののほか、大学学則の規定を準用する。

第 7 章　入学検定料、入学金、授業料及び施設設備資金

（学納金）

第 24 条　大学院の入学検定料、入学金、授業料及び施設設備資金は、別表第２のとおりとする。

２　家計状況又は家計状況の急変による経済的理由により修学困難である者（次項の規定により授業料及び施設設備資金の半額を減免された私費外国人留学生を除く。）には、授業料及び施設設備資金について、別に定めるところにより、その一部を減免することができる。

３　私費外国人留学生には、入学金、授業料及び施設設備資金について、別に定めるところにより、その半額を減免する。

第 8 章　教員組織

（教員）

第 25 条　大学院の教員は、東京家政学院大学の教授、准教授、講師及び助教をもって充てる。

第 9 章　大学院の運営

（研究科会議）

第 26 条　大学院の研究科に研究科会議を置く。

２　研究科会議に関する必要な事項は、別に定める。

（事務）

第 27 条　大学院に関する事務は、大学の事務組織がこれに当たる。

第 10 章　雑　則

（学則の準用）

第 28 条　この学則に定めるもののほか、大学院学生に関する必要な事項は、大学学則の規定を準用する。

２　大学学則を、この学則に準用する場合は、「学部」を「研究科」と、又「教授会」を「研究科会議」と読み替えるものとする。

附　則

この学則は、平成７年４月１日から施行する。

附　則

１　この学則は、平成９年４月１日から施行する。

２　第 24 条に規定する施設設備資金は、平成９年度から入学する者に適用する。

附　則

この学則は、平成 12 年４月１日から施行する。ただし、この学則の施行前に現に在学する者については、第８条に基づく改正後の別表にかかわらず、なお、従前の例による。

附　則

１　この学則は、平成 13 年４月１日から施行する。

２　第 24 条に規定する施設設備資金及び同条ただし書の規定については、平成 13 年度から入学する者に適用する。

附　則

この学則は、平成 13 年４月 12 日から施行し、平成 13 年４月１日から適用する。

附　則

この学則は、平成 13 年７月５日から施行する。

附　則

この学則は、平成 14 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。ただし、第８条に規定する別表第１に関しては、平成14年度以前の入学者については、なお、従前の例による。

附　則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、第８条に規定する別表第１に関しては、平成17年度以前の入学者については、なお、従前の例による。

附　則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、第８条に規定する別表第１に関しては、平成17年度以前の入学者については、なお、従前の例による。

附　則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、第８条に規定する別表第１に関しては、平成19年度以前の入学者については、なお、従前の例による。

附　則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。ただし、第８条に規定する別表第１に関しては、平成20年度以前の入学者については、なお、従前の例による。

附　則

この学則は、平成22年2月19日から施行する。

附　則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第８条に規定する別表第１に関しては、平成21年度以前の入学者については、なお、従前の例による。

附　則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成24年9月25日から施行する。

2　第24条に規定する別表第2に関しては、平成25年度から入学する者に適用する。

附　則

1　この学則は、平成27年4月1日から施行する。

2　第24条に規定する別表第2に関しては、平成27年度から入学する者に適用する。

別表　第１　（第８条関係）

授　業　科　目	単 位 数	摘　　要
〔　生活文化専攻　〕		**１．修了要件**
人間形成特論	2	(1) 学則第１０条に基づき、研究科の定めたコースに
人間形成特論演習	1	準拠して、３０単位以上を修得すること。
生活経営学特論	2	(2) 修士論文又は修士作品及び最終試験に合格すること。
生活経営学特論演習	1	
生活経済学特論	2	
生活経済学特論演習	1	
地域社会特論	2	**２．履修コース**
衣生活学特論	2	①現代家政学
服飾文化特論	2	②健康栄養学
食文化特論	2	③生活デザイン学
食物学特論	2	④児童学
環境文化特論	2	⑤社会福祉学
生活文化史特論Ⅰ	2	
生活文化史特論Ⅱ	2	**３．各履修コースの履修要件**
生活文化特論	2	(1) 必修　　８単位
言語文化特論	2	「人間生活学特別研究演習１～４」８単位を修得すること。
現代家政学特論演習Ａ	1	(2) 選択　２２単位以上
現代家政学特論演習Ｂ	1	所属コースから必ず１２単位以上修得すること。
現代家政学特論演習Ｃ	1	
現代家政学特論演習Ｄ	1	
調理学特論	2	
調理機能学特論演習	1	
応用食品学特論	2	
食品機能学特論	2	
食品微生物学特論	2	
臨床栄養学特論	2	
臨床栄養学特論演習	1	
公衆栄養学特論	2	
栄養教育特論	2	
栄養教育特論演習	1	
地域栄養教育特論	2	
生化学特論	2	
地域栄養教育特論	2	
分子細胞生物学特論	2	

授　業　科　目	単 位 数	摘　　要
病態生理学特論	2	
解剖生理学特論	2	
ヘルスプロモーション特論	2	
国際保健学特論	2	
小児保健学特論	2	
運動栄養学特論	2	
栄養管理学特論	2	
食品・栄養英語文献抄読演習	1	
食生活学特論	2	
応用食品学特論	2	
食品機能学特論	2	
食品科学特論	2	
衣設計学特論	2	
衣環境学特論	2	
住環境計画特論	2	
建築構法特論	2	
住環境設計特論	2	
デザイン特論	2	
情報メディアデザイン特論	2	
生活デザイン特論演習 1	2	
生活デザイン特論演習 2	2	
生活デザイン特論演習 3	2	
生活デザイン特論演習 4	2	
発達心理学特論Ａ	2	
発達心理学特論Ｂ	2	
臨床心理学特論Ａ	2	
臨床心理学特論Ｂ	2	
人間発達特論ＩＣ	2	
人間発達特論ＩＢ	2	
人間発達特論ⅡＡ	2	
人間発達特論ⅡＢ	2	
人間発達特論ⅢＡ	2	
人間発達特論ⅢＢ	2	
人間発達特論ⅣＡ	2	
人間発達特論ⅣＢ	2	
児童学特論Ａ	2	
児童学特論Ｂ	2	
児童学特論Ｃ	2	
児童学特論Ｄ	2	
児童学特論Ｅ	2	
児童学特論Ｆ	2	
児童学特論Ｇ	2	
児童学特論Ｈ	2	
福祉哲学特論	2	
社会保障特論	2	
高齢者福祉特論	2	
介護福祉特論	2	
地域福祉特論	2	
福祉心理学特論	2	
精神保健福祉特論	2	
スポーツセラピー特論	2	
福祉と数理特論	2	
事例研究法	2	
人間生活学特別研究演習 1	2	
人間生活学特別研究演習 2	2	
人間生活学特別研究演習 3	2	
人間生活学特別研究演習 4	2	

別表　第２　（第 24 条関係）

入 学 検 定 料	３万円
入　　学　　金	３０万円
授 業 料(年額)	６０万円
施設設備資金(年額)	１０万円

備 考　学校法人東京家政学院が設置する大学の卒業生については、入学金を免除する。

別表　生活文化専攻の履修コース

コース	授業科目	教員免許状		履修コース		単位	開講学期
		家庭専修コース	栄養専修コース	児童学コース	心理発達コース		
現代家政学	人間形成特論（教育学）	△	□			2	前期
	人間形成特論演習	△	□			1	後期
	生活経営学特論	△				2	前期
	生活経営学特論演習	△				1	後期
	生活経済学特論	△				2	前期
	生活経済学特論演習	△				1	後期
	地域社会特論	△				2	前期
	衣生活学特論	△				2	前期
	服飾文化特論	△				2	後期
	食文化特論	△				2	後期
	食物学特論	△				2	前期
	環境文化特論					2	前期
	生活文化史特論Ⅰ（日本史）	△				2	前期
	生活文化史特論Ⅱ	△				2	後期
	生活文化特論					2	前期
	言語文化特論					2	後期
	現代家政特論演習Ａ					1	前期
	現代家政特論演習Ｂ					1	後期
	現代家政特論演習Ｃ					1	前期
	現代家政特論演習Ｄ					1	後期
健康栄養学	調理学特論		□			2	前期
	調理機能学特論演習		□			1	後期
	応用食品学特論		□			2	後期
	食品機能学特論		□			2	前期
	食品微生物学特論		□			2	前期
	臨床栄養学特論		□			2	前期
	臨床栄養学特論演習		□			1	後期
	公衆栄養学特論		□			2	後期
	栄養教育特論		□			2	前期
	栄養教育特論演習		□			1	後期
	地域栄養教育特論		□			2	後期
	生化学特論		□			2	前期
	分子細胞生物学特論		□			2	後期
	病態生理学特論		□			2	後期
	解剖生理学特論		□			2	前期
	ヘルスプロモーション特論		□			2	前期
	国際保健学特論		□			2	後期
	小児保健学特論		□			2	後期
	運動栄養学特論		□			2	後期
	栄養管理学特論		□			2	前期
	食品・栄養英語文献抄読演習		□			1	後期
全コース共通	人間生活学特別研究演習１	●	●	●	●	2	前期
	人間生活学特別研究演習２	●	●	●	●	2	後期
	人間生活学特別研究演習３	●	●	●	●	2	前期
	人間生活学特別研究演習４	●	●	●	●	2	後期

コース	授業科目	教員免許状		履修コース		単位	開講学期
		家庭専修コース	栄養専修コース	児童学コース	心理発達コース		
生活デザイン学	食生活学特論	△				2	前期
	応用食品学演習	△				2	後期
	食品機能学特論	△				2	前期
	食品科学特論	△				2	後期
	衣設計学特論	△				2	後期
	衣環境学特論	△				2	前期
	住環境計画特論	△				2	前期
	建築構法特論					2	前期
	住環境設計特論	△				2	前期
	デザイン特論	△				2	前期
	情報メディアデザイン特論					2	前期
	生活デザイン特論演習　1					2	前期
	生活デザイン特論演習　2					2	後期
	生活デザイン特論演習　3					2	前期
	生活デザイン特論演習　4					2	後期
児童学	発達心理学特論A					2	前期
	発達心理学特論B					2	後期
	臨床心理学特論A				◎	2	前期
	臨床心理学特論B				◎	2	後期
	人間発達特論ⅠA				◎	2	前期
	人間発達特論ⅠB				◎	2	後期
	人間発達特論ⅡA				◎	2	前期
	人間発達特論ⅡB				◎	2	後期
	人間発達特論ⅢA				◎	2	前期
	人間発達特論ⅢB				◎	2	後期
	人間発達特論ⅣA				◎	2	前期
	人間発達特論ⅣB				◎	2	後期
	児童学特論Ａ（教育原理）					2	前期
	児童学特論Ｂ（道徳教育）					2	後期
	児童学特論Ｃ（保育の原理と方法）					2	前期
	児童学特論Ｄ（運動と健康）					2	後期
	児童学特論Ｅ（数学教育）					2	前期
	児童学特論Ｆ（音楽教育）					2	後期
	児童学特論Ｇ（英語教育）					2	後期
	児童学特論Ｈ（国際理解）					2	前期
社会福祉学	福祉哲学特論					2	前期
	社会保障特論					2	後期
	高齢者福祉特論					2	後期
	介護福祉特論					2	後期
	地域福祉特論					2	前期
	福祉心理学特論					2	後期
	精神保健福祉特論					2	後期
	スポーツセラピー特論					2	前期
	福祉と数理特論					2	後期
	事例研究法					2	前期
全コース共通	人間生活学特別研究演習１	●	●	●	●	2	前期
	人間生活学特別研究演習２	●	●	●	●	2	後期
	人間生活学特別研究演習３	●	●	●	●	2	前期
	人間生活学特別研究演習４	●	●	●	●	2	後期

備　　考

１．修了要件

(1) 学則第１０条に基づき、研究科の定めたコースに準拠して、３０単位以上を 修得すること。

(2) 修士論文又は修士作品及び最終試験に合格すること。

２．履修コース

①現代家政学
②健康栄養学
③生活デザイン学
④児童学
⑤社会福祉学

３．各履修コースの履修要件

(1) 必修　８単位
「人間生活学特別研究演習１～４」
●印の８単位を修得すること。

(2) 選択　２２単位以上
所属コースから必ず１２単位以上修得すること。

４．専修免許状取得

(1) 中学校教諭専修免許状(家庭)、高等学校教諭専修免許状（家庭）を取得する場合は、教員免許状家庭専修コース欄の△印の科目より２４単位以上を修得すること。

(2) 栄養教諭専修免許状を修得する場合は、教員免許状栄養専修コース欄の□印の科目より２４単位以上を修得すること。

５．臨床発達心理士受験資格取得

臨床発達心理士受験資格を取得する場合は、受験資格臨床発達心理士欄の○印の科目をすべて修得すること。

大 学 院 履 修 案 内

１．修了要件

大学院修士課程においては、２年以上在学し３０単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程の目的に応じ、修士論文、修士作品又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、大学院に１年以上在学すれば足りるものとする。

２．履修方法

⑴授業科目の履修

ア．授業科目の履修については、５講座を設定している。学生は、各人の志望する専門分野に応じて指定される研究指導担当教員（以下「指導教員」という。）の指導のもとに、特定の履修講座に準拠して授業科目を選定し、履修するものとする。【大学院研究科履修規則の別表参照】

各履修講座は、それぞれ下記の研究課題に関連する専門科目を主体として構成し、必修８単位及び選択２２単位以上を組み合わせることにより、特定の専門分野について深く学ぶとともに、生活文化に関する総合的な知見を養い、各種の高度の専門的職能に対応できるように設定されている。

イ．各履修コースにおいて中心とする研究課題

①現代家政学　②健康栄養学　③生活デザイン学

④児童学　⑤社会福祉学

ウ．人間生活学特別研究演習

各履修講座の必修８単位を「人間生活学特別研究演習１～４」を履修する。

人間生活学特別研究演習は、履修講座別の専門分野及び関連分野の学修の成果をまとめていくための演習科目として、１年次及び２年次を通じて開講する。

主たる指導教員を含む複数の教員による講義及び文献講読等を通じて、生活文化に関する幅広い視野のもとに、専門分野における研究を深める方法を総合的に学ぶとともに、修士論文又は修士作品（以下「論文又は作品」という。）計画の設定、文献調査、野外調査、実験、設計制作等、論文又は作品の作成に至る一連の作業を遂行することにより、問題解決の能力を養う。

また、その結果を発表することによって、当該専門分野における研究の発展に寄与できることを目標とする。

⑵　授業

授業は、1 年間を 2 期（前期・後期）に分け、各学期 15 週で単位を修得することになっている。

⑶　単位

履修単位数の計算は、次の計算基準によって行う。

講義は、毎週 1 時間 15 週をもって 1 単位とする。

演習は、毎週 2 時間 15 週をもって 1 単位とする。

⑷　授業時間

本学の授業時間は、次のとおりである。

時　限	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限
町　田	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	－
千代田三番町	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

３．研究指導担当教員

大学院修士課程に在学中は、各人の研究主題によって、指導教員定められる。指導教員は、学生の履修科目の選択に当たっての指導、各人の研究主題に対する研究指導、研究上の諸問題、身分上の問題等も含めて、指導及び相談に当たる。

４．履修登録

学生は、学年始めにその学年において履修するすべての授業科目を「履修登録票」に記入し、指定された期間に大学事務局へ届け出なければならない。

履修登録上の注意事項

(1)　手続きは、必ず指導教員の承諾を得て行うこと。

(2)　前期開講授業科目及び後期開講授業科目とも、すべて学年始めに履修登録すること。

(3)　履修登録した授業科目でなければ、試験を受けることができない。

(4)　試験を受けなかった授業科目、又は不合格になった授業科目を再度履修(再履修)する場合は、次年度に改めて履修登録すること。

(5)　履修登録した授業科目の変更、追加、取消しは、原則として許可しないので、履修登録の際は、慎重に計画をたてること。

(6)　履修登録後、所定の日時に「履修登録確認表」を交付するので誤りのある場合には、所定の日時に大学事務局へ申し出ること。

(7)　手続きに当たっては、随時、大学事務局掲示板に掲示するので、注意すること。

５．試験

(1) 定期試験

ア．試験は、履修終了時の期末に行う。

イ．試験は、原則として授業の実施時間帯で行うので、試験の時間割は発表（掲示）しない。

(2) 試験の方法

ア．試験は、筆記、口述、論文、レポート等により行う。

イ．レポート等の提出の場合は、提出期日を厳守すること。

(3) 受験資格

ア．履修登録をした者

イ．出席時間数が当該授業科目の総授業時間数の３分の２以上の者

ウ．授業料等完納者

(4) 追試験及び再試験

大学院にあっては、追試験及び再試験は行わない。

６．成績評価

成績評価は、次のとおりとし、不合格者は単位修得にならない。

表　記	得　点	合　否
優	100 点～80 点	合　格
良	79 点～70 点	
可	69 点～60 点	
不可	59 点以下	不合格

成績の発表は、成績通知書の交付によって行う。交付の時期等については、別途掲示する。

交通機関が不通になった場合等の授業の取扱い

交通機関がストライキ・台風・雪害・地震等により不通となるか又は不通となることが予想され、授業を実施するのに支障があると判断される場合は、授業を臨時休講とする。原則として、各時限の授業開始の２時間前までに、学内掲示及び「K.net」で通知する。

※　対象となる交通機関及び路線
・首都圏の JR 各線及び私鉄の各線
・京王バス（めじろ台駅⇔東京家政学院）及び神奈川中央交通バス（相原駅⇔東京家政学院）

大学から学生へのスピーディな情報伝達サービス

～Kasei-G@kuin.net（通称 K.net）～

学生が快適に大学生活を送れるよう、大学の様々な情報をよりスピーディに提供する環境を整備しています。それが「K.net」です。

このサービスは、台風や雪害等による休講や授業ごとの休講情報・学生呼び出し等を web 上に公開し、i-mode や EZ ウェブ・ソフトバンクの携帯電話を使用し閲覧できます。

誰でも簡単な操作で登録や情報をキャッチすることができ、休講情報のほか今後各種連絡事項の提供、学生呼び出しなど活用範囲を広げ、より有意義な学生生活を送ってもらえるサービスへ発展させて行きます。

なお、休講情報等はあくまでも掲示板に掲示されている内容を第一優先とし、このサービスはその補助を行う手段であることを承知しておいてください。

修士論文又は修士作品の提出に関する手続き等

１．学生は、第１年次の所定期日までに、修士論文又は修士作品（以下「論文又は作品」という。）の主題とその研究内容の概要を記載した『修士論文又は修士作品題目届』を、あらかじめ研究指導担当教員（以下「指導教員」という。）の承認を受けた後、大学事務局を経て研究科長に提出しなければならない。

２．論文又は作品題目届を提出した後、これを変更しようとするときは、指導教員の承認を受けた後、所定の期日までに『修士論文又は修士作品題目変更届』を、大学事務局を経て研究科長に提出するものとする。

３．学生は、論文又は作品 正本１部、副本１部を作成し、所定の期日までに、大学事務局を経て研究科会議に提出しなければならない。論文又は作品の提出期日については、大学院代議員会の定めるところによる。論文又は作品の提出にあたり、その形式等の要領については、別途指示する。

４．論文又は作品の提出について、指定された提出期限に遅れ、あるいは所定の手続きを行わないときは、研究科会議の議を経てこれを受理しないことがある。

５．修了予定年次学生で、論文又は作品の提出を延期しようとするときは、速やかに指導教員の承認を受け、研究科長に届け出なければならない。

６．修士論文又は修士作品、梗概を研究科長に提出するにあたり、指導教員の承認を受け、『著作権許諾書』を提出するものとする。

修士論文又は修士作品の審査及び最終試験

１．修士論文又は修士作品（以下「論文又は作品」という。）の審査及び最終試験は、大学院代議員会の選出した審査委員が行う。

２．審査委員は、研究指導担当教員（以下「指導教員」という。）を主査とし、これに当該論文又は作品に関連のある授業科目の担当教員２名以上を加え、審査委員会を構成する。

３．最終試験は、所定の単位を修得し、かつ論文又は作品の審査に合格した者について、論文又は作品及びこれに関連ある研究領域について、口述により行う。ただし、必要がある場合は、筆記試験を課すことがある。

４．論文又は作品及び最終試験の成績評価は、合格又は不合格の評語をもってこれを表す。

５．審査委員会は、論文又は作品審査及び最終試験を終了したときは、その結果に学位授与についての意見を付した審査報告書を研究科長に提出するものとする。

平成２７年度　修士論文又は修士作品の提出に関する日程

１年	１．論文(作品)題目届の提出締切	平成２８年　１月２９日(金)
２年	１．論文(作品)題目変更届の提出締切 ２．論文(作品)の提出	平成２７年１０月３０日(金) 平成２７年１２月１８日(金)

（様式）

平成２７度　大学院　人間生活学研究科
修士論文又は修士作品題目届

提出日　平成　　年　　月　　日

学籍番号								氏名	
題　目									

研究内容の概要

研究指導担当教員	印

東京家政学院大学大学院

修士論文又は修士作品の形式等について

修士論文又は修士作品の提出にあたり、その形式等については、以下の要領によること。

１．修士論文の形式について

(1)　修士論文について

①　修士論文は、ワープロ打ちＡ４判（Ａ３判を折り込んでもよい）とし、論文の頭初に別紙様式３（大学事務局配付）による題記を付すこと。

②　修士論文の様式は、別紙様式４－１又は様式５－１（大学事務局配付）によること。

③　本文中に写真（印画紙）・原画等を貼付する場合は、本文と同じ枠の範囲内に貼付すること。
又、本文以外の資料（グラフや図表などをまとめたもの等）を添付する場合も、製本して本学図書館に保管しますので、本文と同様に周囲に余白をとること。

(2)　修士作品について

修士作品については、研究指導担当教員の指示に従い作製するものとし、作品に関する論文については、上記(1)の修士論文に準じて作成すること。

２．修士論文（又は作品）の提出について

(1)　修士論文の提出部数は、正本１部とし、さらに審査用論文として副本１部を提出すること。
但し、研究指導担当教員から審査用論文の提出部数の指示があった場合は、その指示による。

(2)　修士作品の提出部数は、研究指導担当教員の指示による。
修士論文（又は作品）の提出期限は、修了予定年次の 12 月 20 日 15 時までとする。但し、当日が土曜日又は祝日に当たる場合は、その前日とし、日曜日に当たる場合は、その前々日とする。

(3)　修士論文（又は作品）の提出場所は、大学事務局とする。

(4)　修士論文（又は作品）の提出方法は、研究指導担当教員の指示により、クリア・ファイル又はバインダーを使用し、表紙、背表紙に論文題目並びに氏名を記載すること。但し、論文審査合格後、速やかに本製本をして再提出してください。（本製本にかかる経費は、自費。）

なお、詳細については、大学事務局から指示します。（個人で製本を行う場合は、詳細を大学事務局で確認すること。）

３．「修士論文（又は作品）要旨」、「研究歴」及び「修士論文（又は作品）梗概」の提出等について

(1)　「修士論文（又は作品）要旨」及び「研究歴」について

①　「修士論文（又は作品）要旨」及び「研究歴」の要綱等は、修了予定年次の修士論文（又は作品）提出時に配付する。

②　「修士論文（又は作品）要旨」及び「研究歴」の提出枚数は、各１枚とする。

③　「修士論文（又は作品）要旨」及び「研究歴」の提出期限は、修了予定年次の１月 20 日までとする。但し、当日が土曜日又は祝日に当たる場合は、その前日とし、日曜日に当たる場合は、その前々日とする。

④　「修士論文（又は作品）要旨」及び「研究歴」の提出場所は、大学事務局とする。

⑤　「修士論文（又は作品）要旨」は、修士論文発表会の資料として出席者に配付するものとする。

(2)　「修士論文（又は作品）梗概」について

①　「修士論文（又は作品）梗概」の要綱等は、修了予定年次の修士論文（又は作品）提出時に配付する。

②　「修士論文（又は作品）梗概」の提出枚数は、４枚とする。

③　「修士論文（又は作品）梗概」の提出期限は、修了予定年次の２月末までとする。
但し、当日が土曜日又は祝日に当たる場合は、その前日とし、日曜日に当たる場合は、その前々日とする。

④　「修士論文（又は作品）梗概」の提出場所は、大学事務局とする。

⑤　「修士論文（又は作品）梗概」は、「東京家政学院大学紀要」等に記載するものとする。

専 修 免 許 状 に つ い て

本学大学院においては、専修免許状が取得できます。
専修免許状の種類、取得するための要件及び授業科目は、次のとおりです。

１．専修免許状の種類

○　中学校教諭専修免許状　（家庭）
○　高等学校教諭専修免許状　（家庭）
○　栄養教諭専修免許状

２．取得要件

○　本学大学院を修了すること。
○　「家庭」の専修免許状を取得する場合は、中学校教諭１種免許状（家庭）又は高等学校教諭１種免許状（家庭）を有していること。
○　「栄養教諭」の専修免許状を取得する場合は、管理栄養士免許証及び栄養教諭１種免許状を有していること。
○　指定された授業科目について、24 単位以上修得すること。

３．授業科目

○　（家庭）

別途指示する。

○（栄養教諭）

別途指示する。

臨床発達心理士受験資格取得について

本学大学院においては、臨床発達心理士受験資格が取得できます。
臨床発達心理士受験資格を取得するための要件及び授業科目は次のとおりです。

１．取得要件

○ 本学大学院（心理発達コース）を修了すること。

○ 指定科目に対応する授業科目について、すべての単位を修得すること。

２．授業科目

別途指示する。

各種証明書の交付手続き等について

各種証明書の交付を受ける場合、次により手続きを行う。

(1)　証明書の申込み

「各種証明書申込書」に必要事項を記入の上、(2)の表に示された手数料分の証紙を設置してある自動証紙販売機で購入し、同申込書に貼付して、大学事務局窓口にて申し込むこと。

各種証明書申込書記入	→	自動証紙販売機で証紙購入	→	各種証明書に証紙貼付	→	申　　込（大学事務局）

9:00 から
平日 17:00
土曜 12:30　まで

所定様式外の証明書（本学以外の機関の定める様式）及び英文証明書の交付等については、事前に大学事務局窓口で確認すること。

証明書の受取りは、原則申込日の翌日に窓口にて学生証提示の上、交付する。

(2)　各種証明書等手数料

名　　称	手数料	名　　称	手数料
在 学 証 明 書	300 円	修 了 証 明 書	300 円
成 績 証 明 書	300 円	修了見込証明書	300 円
成績・履修証明書	300 円	退 学 証 明 書	300 円

※　英文による上記証明書の手数料は、３倍となります。

(3)　その他の諸手続き

種　別	期　日	適　　用
欠 席 届	必要の生じたとき	３日以上欠席の時に提出、 １週間以上病欠の場合医師の診断書添付
休 学 届	〃	当該学期の休学の場合は授業料完納者のみ願出可、次学期休学の場合で授業料完納済みの学期中の願出に限り
復 学 届	〃	休学満了時の復学の場合
復 学 願	〃	休学途中時の復学の場合
退 学 願	〃	授業料完納者のみ願出可

大学院生共同研究室の利用について

１．大学院共同研究室は、大学院生が自主的学習や研究によって、知性を磨き豊かな感性を養い、専門分野における高度の研究能力を身につけるための研究の場であります。

２．本学大学院生には、町田キャンパスに大学院生共同研究室の研究用個人机が用意されています。

３．研究用個人机の割当は、入学後のオリエンテーションの際に行われます。

４．大学院生共同研究室開室時間は、次のとおりです。

月曜日～金曜日	８：００　～　２０：００
土曜日	８：００　～　１８：００

※　延長する場合は、研究指導担当教員の許可を得て管理センターへ届けてください。

５．休室日

⑴ 日曜日、国民の祝日及び創立記念日(5 月 21 日)

⑵ 年末年始(12 月 26 日 ～ 翌年 1 月 5 日)

⑶ 夏季休業中の土曜日及び構内施設点検期間

⑷ その他、入試等によって入講禁止となる日

６．利用に当たっては、静粛、清潔、快適な研究環境に努めること。

NO. 4051101　　人間形成特論（教育学）

佐藤　広美

授業科目概要・教育目的（履修条件）

福島の子どもたちを論じたい。いま、福島の子どもたちはどうなっているのか、。親たちはどんな暮らしを行っているのか、教師は何を考えているのか。そうした具体的な事例を踏まえて、現実の教育の課題をまずは明確にしてみたい。そして、そうした現実がいったいなぜ、生み出されてきたのか、その原因を戦後70年の教育の歴史を検討するなかで、韓挙げていこうとすること。それが本講の目的である。

学習目標・到達目標

戦後70年と教育を講じる。2015年は、戦後70年である。戦後70年の教育をどのように総括することができるのか。その点を考えることが学習目標となる。
その視点は、2011年の3･11震災原発事故がなぜ、起きたのか、と言う視点から検討してみたい。戦後70年の日本は、この3･11をなぜ、生み出してしまったのか、それをどう見ようとしている人間を形成してきたのか。
それが、本講の目的である。

準備学習

毎回、テキストをきちっと読みこなして、発言を準備すること。日本の現実の教育に興味関心をしっかりもってもらいたい。教育の現実は歴史的に形成され、問題の解決が歴史的分析によって、可能となる、そのような研究の方法を自覚してほしい。

評価方法その他

毎回の発言とレポートの総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1, 福島と東日本の沿岸部の子ども･学校･教師

2, 同じ

3, 同じ

4, 同じ

5, 戦後70年の歴史、戦後教育改革とは何か

6, 同じ

7, 1950年代の教育と教育学

8, 同じ

9, 1960年代の教育と教育学

10, 同じ

11, 1970年代の教育と教育学

12, 同じ

13, 1980年代の教育と教育学

14, 1990年代の教育と教育学

15, 2000年以降の教育

使用教科書名

指定されたテキストは使わないが、佐藤広美の論文を5点ほど、まずは、批判的に検討してもらう。その後、話し合って、共通のテキストを印刷配布する。

NO. 4051102　　人間形成特論演習

佐藤　広美

授業科目概要・教育目的（履修条件）

福島原発事故に関するレポート類を検討し、教育学の課題を考える。福島の学校と子どもは、いったい、どのような暮らしを送っているのか、教師は何を課題にしようとしているのか。その点を考えて見たい。そうした視点から、水俣病事件と1945年敗戦･戦後改革を同じように分析してみたい。
私たちは本当に、教育の困難な現実に向き合っているのだろうか。そうした災禍の中にあって、人間はどのようにして成長していけるものだろうか。希望を生み出すとはどのようなことなのか。その点を教育学の課題にして、検討すること。それが本講の教育目的である。

学習目標・到達目標

復興の教育思想を考えること。これが、目標である。復興の教育思想とは、2011年の3･11の震災･原発事故のことであり、これを1945年の8･15の敗戦の教育思想と重ねながら検討したい。8･15の復興の教育思想を学びながら、3.11の復興の教育の課題をすることが課題となる。日本人は、8･15敗戦を真に向き合うことができたのだろうか。この点を、3.11との関係で論じることが学習目標となる。

準備学習

事前のテキストの読み込みが大切になってくる。準備が大変だと思うが、ぜひ頑張ってほしい。

評価方法その他

毎回の発言とレポートの総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1, 福島原発災害と学校･子どもに関する資料講読

2, 同じ

3, 同じ

4, 水俣病事件と学校･子どもに関する資料講読

5, 同じ

6, 同じ

7, 1945年敗戦と教育改革に関する資料講読

8, 同じ

9, 同じ

10, 戦後教育学とは何かの批判的検討文献の講読

11, 同じ

12, 同じ

13, 同じ

14, 総括

15, 総括

使用教科書名

『戦後日本の教育と教育学』、かもがわ出版、『3.11と教育改革』かもがわ出版

NO. 4051103　　生活経営学特論

渡辺　一雄

授業科目概要・教育目的（履修条件）

政治、経済、教育、労働などの分野において、先進国・開発途上国の「開発ジェンダー」のテーマから派生する基本的諸課題を摘出し、外国文献をも参考に学際的比較分析を試みる。また、日本が抱える性差に関する固有の課題（男女共同参画社会実現のための諸問題）をも取り上げ、地球的規模での解決の方向性について論議する。

学習目標・到達目標

開発途上国における開発問題を中心に、ジェンダー視点から分析し解決への方向性について考究できる力をつける。

準備学習

受講生が旺盛な好奇心と自主的に問題を見つけ分析、解決する研究態度の育成に努力してください。皆さんが作る授業です。

評価方法その他

平常点 70%　輪読した論文の発表、各自の研究報告、授業中のディスカッションへの参加状況等を総合的に判断　期末レポート 30%

週　テーマ・授業目標等

ンテーション

2.　開発におけるジェンダー概念と主要課題Ⅰ（講義）

3.　同Ⅱ（講義）

4.　同Ⅲ（講義）

5. フィールドワーク（「男女共同参画学習センター」

武蔵嵐山・宿泊プログラム）

6. フィールドワーク報告　ディスカッション

7.　英文資料輪読Ⅰ

8.　同Ⅱ

9.　同Ⅲ

10. フィールドワーク（「内閣府」訪問）

11. 各自研究発表（フィールドワーク報告を含む。）

12. 同Ⅱ、期末レポート作成要領（説明）

13. 講師設定テーマに基づくディスカッション（ディベート）Ⅰ

14. 同Ⅱ

15. 期末レポート提出（口頭試問を含む。）

使用教科書名

授業中に紹介します。

NO. 4051104　　生活経営学特論演習

渡辺　一雄

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前期の生活経営学持論では、政治学、経済学、教育・社会政策などの社会科学の基礎的知見を基に国内外のジェンダー問題を概観した。本演習では、この点の学習を深化させるため①学際的テーマとしての環境、人権、平和等開発途上国を含むグローバルな視点での持続発展社会の構築、②日本が当面する男女の新たなライフスタイル（雇用、育児等家庭での役割分担、社会参加等）の問題等、国内外の事例を検討しつつ、解決のための具体的な方策を検討する。

学習目標・到達目標

前期生活経営学特論で国内外のジェンダー問題を理解し、分析する力をつけた上で、後期の演習において、今日の課題を解決するため私たち一人一人が取り組むべき地球市民的実践について考え・実践する力をつける。

準備学習

前期生活経営学特論と同様、受講生の自主的学習を基本に問題発見・解決の研究手法を重視する。

評価方法その他

輪読した論文の発表、各自の研究報告、授業中のディスカッション：60%、期末レポート40%

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、受講生の自主的学習計画の
   プレゼンテーション
2. 「開発とジェンダー」に関する学際的主要テーマ（講義Ⅰ）
3. 同上（講義Ⅱ）
4. 日本が当面する男女平等参画学習社会実現に向けた
   課題（講義Ⅲ）
5. 受講生の研究テーマ等の
   プレゼンテーション・ディスカッション（Ⅰ）
6. 同Ⅱ
7. 輪読Ⅰ：英語文献資料
8. 輪読Ⅱ：同
9. 輪読Ⅲ：同
10. フィールドワーク（一斉校外学習）
11. フィールドワーク報告
12. 講師設定によるディベート・ディスカッション
13. 同Ⅱ
14. 期末最終レポート作成要領（説明、Q&A）
15. レポート提出（口頭試問を含む。）

使用教科書名

授業中に紹介する。

NO. 4051105　　生活経済学特論

上村　協子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代生活学として、文部科学省「大学等及び社会教育における消費者教育の指針」を読み解き、持続可能な社会を実現するための重要な要素として生活設計を認識し、ライフスタイルを工夫し、主体的に行動できる消費者市民を育てる生活経済教育内容を検討する。

学習目標・到達目標

生活者視点の経済の理論と課題をESC：Education for Sustainable Consumption（持続可能な消費のための教育）としての金融経済教育を取り上げ明らかにする。

準備学習

日本の生活設計教育・金融経済教育・消費者教育は転換点にたっています。新しい消費者教育を一緒に提案していきましょう。

評価方法その他

消費者教育の取組みに実態に関するレポート50点
日本の消費者教育の実態に関するレポート50点

週　テーマ・授業目標等

1現代生活学とは何か

2文部科学省　消費者教育指針を読む

3OECDや北欧諸国の消費者教育に学ぶ

4金融広報中央委員会　生活設計教材の検討（1）

5金融広報中央委員会　生活設計教材の検討（2）

6金融広報中央委員会　生活設計教材の検討（3）

7日本における大学での消費者教育

8大学における金融教育と消費者教育

9ESC　持続可能な消費のための教育の可能性

10生活文化ESCの事例検討

11生活文化ESCの事例検討

12生活文化ESCの事例検討

13OECDの政策勧告（2009）から考える

14消費者市民教育の可能性

15消費者市民教育ネットワークの必要性

使用教科書名

（社）日本家政学会　家庭経済学部会編『規制改革と家庭経済の再構築』2007年建帛社

NO. 4051106　　生活経済学特論演習

上村　協子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

前半では、日本の不平等を家計分析から明らかにする。ジェンダー、職業、地域に注目し、家計調査結果をもとに分析を行う。
　後半では、農山漁村における女性農業者の起業活動に対して、農業委員、JA役員、認定農業者への女性割合の増加がいかに影響を及ぼすかを検討する。
　生活者の経済学における家計分析や女性農業者視点の重要性を考察する。

学習目標・到達目標

相続における女性と財産をテーマに、生活者視点での経済の理論と生活設計の課題を明らかにする。

準備学習

生活復興のための経済学を一緒に議論していきましょう。

評価方法その他

家計分析などのレポート40点
農山漁村の起業に関するレポート40点
授業の事前準備・授業中の発言内容　20点

週　テーマ・授業目標等

1相続における女性と財産

2家計分析にみる不平等（1）家計収支

3家計分析にみる不平等（2）家計財産

4家計分析にみる不平等（3）地域格差

5家計分析にみる不平等（4）相続・家計財産・ジェンダー

6家計分析にみる不平等（5）不安定就労シングルの家計

7女性農業者の現状（1）

8女性農業者の現状（2）

9農業法人・農業経営体で活躍する女性農業者（1）

10農業法人・農業経営体で活躍する女性農業者（2）

11農山漁村の起業活動と女性認定農業者（1）

12農山漁村の起業活動と女性認定農業者（2）

136次産業からみる生活経済

14生活復興のための生活経済学：家計分析

15生活復興のための生活経済学：農山漁村の女性起業

使用教科書名

（1）白波瀬佐和子編『変化する社会の不平等』東京大学出版会
（2）白波瀬佐和子『生き方の不平等』岩波書店
（3）家庭経済学部会編『規制改革と家庭経済学の再構築』建帛社

NO. 4051107　　地域社会特論

袖井　孝子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

少子高齢社会における家族や地域社会の問題をジェンダーの視点で解明し、問題の解決策をさぐりたい。テキストを読むだけでなく、新聞記事や調査報告書を手がかりに、実態の把握に努める。ビデオ鑑賞や施設見学も取り入れたい。

学習目標・到達目標

現代社会における家族や地域社会の絆の脆弱化の実態を知り、その解決策をさぐる。家族社会学や地域社会学の理論を学び、実証的な調査研究を探索し、自分自身がおかれている状況をとらえ、自分で考える力を身につけることを狙いとする。

準備学習

評価方法その他

平常点(20点)、授業中の発言(30点)、レポート(50点)

週　テーマ・授業目標等

1. いま家族や地域はどうなっているのか
2. 少子化の現状と課題
3. なぜ結婚しないのか
4. 戦後日本の家族と地域(1)
   1945年～1970年代半ば
5. 戦後日本の家族と地域(2)
   1970年代半ば～1990年代半ば
6. 戦後日本の家族と地域(3)
   1990年代半ば～
7. 私にとっての家族と地域(グループ討議)
8. ビデオ鑑賞
9. 孤立死・孤独死を考える
10. 地域福祉の現状と課題
11. 施設見学
12. 高齢者の住まいと住まい方
13. ジェンダーと介護
14. 介護保険制度について
15. 地域の絆を取り戻すには(グループ討議)

使用教科書名

袖井孝子「女の活路　男の末路」中央法規出版

NO. 4051108　　衣生活学特論

植竹　桃子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

衣服の設計・選択、着装、管理について、主に着用者の側面からの基本的事項の理解を定着させ、さらに、現代の衣生活関連の課題について考える。

学習目標・到達目標

衣服の設計・選択、着装、管理に関して究明が求められる課題に対し、基本となる知識を統合的に的確に応用発展させて考える力をつける。

準備学習

人間生活に欠かせない「衣服」について、日頃から意欲的に情報を得ながら、問題発見、批判的思考を行いながら、問題解決に向けていく実力を養ってほしい。

評価方法その他

平常点(授業参加、課題発表など)50%、学期末レポート50%

週　テーマ・授業目標等

1. 衣生活の変遷(1)形態，材料
2. 衣生活の変遷(2)設計，選択，管理
3. 衣服の素材
4. 衣服の管理
5. 着用者の身体的成長・からだつき
6. 着心地(1)動きやすさと衣服形態
7. 着心地(2)衣服内気候
8. 着心地(3)接触感
9. アパレル産業と既製衣服
10. 衣生活に求められる課題(1)着用者の個体差
11. 衣生活に求められる課題(2)持続可能な社会にむけて
12. 衣生活に求められる課題　事例(1)
13. 衣生活に求められる課題　事例(2)
14. 衣生活に求められる課題　事例(3)
15. まとめ

使用教科書名

受講者と相談のうえで決定する。

NO. 4051109　　服飾文化特論

山村　明子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

19世紀後半のイギリス・ヴィクトリア朝の社会における女性の位置づけを理解し、当時の女性服飾が包含していた意味について考える。同時代に日本は欧風化政策を進める中で西欧文化を積極的に導入し、服飾もまたあらたな意味を持つようになった。日本にとっての洋服とは何かを考える。

学習目標・到達目標

服飾文化の歴史的な事象をとらえ、その時代の人と社会の営みの中で服飾がどのように生み出されてきたのかを理解する。特に近代における西洋と日本とのかかわりの中で服飾文化の発展を分析する。

準備学習

服飾文化を西洋と日本とを横断してとらえます。

評価方法その他

講義を通して示す課題及び期末のレポートを総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

第1週　19世紀のイギリス・ヴィクトリア朝社会の特長

第2週　19世紀のイギリスにおける女性像　家庭の天使

第3週　19世紀の女性解放運動の発展とファッション

第4週　19世紀の女性像の変化　教育と労働

第5週　19世紀の女性とレジャーの発展

第6週　ファッションの中の日本趣味

第7週　19世紀の「余った女」と「新しい女」

第8週　20世紀初頭のライフスタイルの変化

第9週　明治開国期の欧風化政策

第10週　欧風化政策と洋装

第11週　女子教育と洋裁

第12週　明治の女と西洋の女

第13週　明治から大正にかけての家庭生活の変化

第14週　日本がイギリスから受けた影響と服飾観

第15週　まとめ

使用教科書名

必要に応じて授業内で指示をする

NO. 4051110　　食文化特論

江原　絢子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間と食べ物の関わりについて、歴史的、文化的な視点を加えながら、現代、将来の食生活のあり方を考える。具体的には、食文化研究の状況と分野について、食文化に関する資史料の範囲と所在について学び、今後の研究課題について考える。また、具体的史料を用い、伝統的食生活の特徴について学ぶとともに、それを今後の食生活にいかに活かすことが出来るかについても考えたい。

学習目標・到達目標

準備学習

評価方法その他

毎回のディスカッションとレポート、出席を総合評価する。

週　テーマ・授業目標等

第1週　食生活、に関する先行研究とその範囲

第2週　食生活に関する史資料とその所在資史料の所在

第3週　現代の食生活の概要と課題　1

第4週　現代の食生活の概要と課題

第5週　資料に見る各地域・時代の食生活の特徴と変化

第6週　資料に見る各地域・時代の食生活の特徴と変化

第7週　資料に見る各地域・時代の食生活の特徴と変化

第8週　資料に見る各地域・時代の食生活の特徴と変化

第9週　資料に見る各地域・時代の食生活の特徴と変化

第10週　資料に見る各地域・時代の食生活の特徴と変化

第11週　家庭・学校・社会における食教育　1

第12週　家庭・学校・社会における食教育　2

第13週　食生活・食文化・食教育の研究方法　1

第14週　食生活・食文化・食教育の研究方法　2

第15週　まとめ

使用教科書名

毎回のプリント

NO. 4051111　　食物学特論

三宅　紀子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

“食”には健康に生活するため以外に、社会的、文化的役割などさまざまな働きがある。本科目では食生活について、健康との関わり、調理・加工による変化、嗜好性など科学的な側面から、最新の知見も取り入れて講義する。また、食の機能性など、食に関する正しい情報の収集する方法についても解説する。学部で栄養学、食品学、調理学を学んでいることが望ましい。

学習目標・到達目標

栄養素の機能、食品の特性と私たちの食生活との関連についての理解を深めることをめざす。食に関する正しい情報を集めることができること、健康で豊かな食生活を営むことができる力を養うことを目標とする。

準備学習

食の科学的な領域を学んでいくためには、基礎に化学、生物学が必要となります。きちんと復習しておいてください。また、食に関するニュースや話題には関心をもつようにしてください。

評価方法その他

レポート、授業への参加状況などにより総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

1.はじめに　食の機能

2.栄養素の機能と食生活1

3.栄養素の機能と食生活2

4.栄養素の機能と食生活3

5.栄養素の機能と食生活4

6.栄養素の機能と食生活5

7.食品成分の調理・加工による変化1

8.食品成分の調理・加工による変化2

9.食品成分の調理・加工による変化3

10.食の嗜好性1

11.食の嗜好性2

12.食の情報の収集法

13.食の情報の収集の実際1

14.食の情報の収集の実際2

15.まとめ

使用教科書名

特に指定しない。（必要に応じてプリントを配布）

NO. 4051112　　環境文化特論

大橋　竜太

授業科目概要・教育目的（履修条件）

歴史的建造物の保存・活用に至る過程について学んでいく。調査対象の選定、文献調査のすすめ方、現地での実測調査の手法、文化財的価値の位置づけ、保存・活用の提案を、歴史的建造物の文化財申請に関わる手続き等に準じながら、学習する。授業では、できるだけ多くの先行実例にふれることで、さまざまな事例に対処できる能力を付けていく。最終的には、具体的な歴史的建造物に関して、活用しながら後世に残す手法を提案する。なお、対象とする建造物または都市は、履修者と相談して決定する。

学習目標・到達目標

歴史的な都市およびそこに建つ歴史的建造物を調査(文献調査・建物調査)の手法を学ぶ。また、都市および建造物の価値を位置づけるために、どのような調査が必要かを検討する、さらに、これら歴史遺産を後世に伝えていくための保存・活用の手法について学習していく。
具体的な歴史遺産について、これらを利用した町づくりが提案できるようになることを目標とする。

準備学習

建築保存を通して、わが国の伝統を学ぶ授業です。事例をもとに、未来のまちづくりを考えていきます。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況・提出物等で総合的に判断する:50%）および課題（50%）による

週　テーマ・授業目標等

1 イントロダクション

2 歴史的建造物の保存・活用の事例1

3 歴史的建造物の保存・活用の事例2

4 保存・活用のプロセス

5 文献調査の方法

6 歴史的建造物の実測調査の方法

7 実測演習

8 歴史的建造物の評価の視点

9 調査のまとめ

10 保存・活用に関わるさまざまな法規制

11 文化財建造物の修復のルール

12 町並み保存

13 保存・活用計画とは

14 保存・活用計画の立案

15 まとめ

使用教科書名

特に定めない

NO. 4051113　　生活文化史特論Ⅰ（日本史）

熊井　保

授業科目概要・教育目的（履修条件）

式亭三馬「浮世風呂」と喜田川守貞「近世風俗志」を社会経済史的側面から検討する。巨大市場の出現、都市問題と経済、江戸の食事等について概観する。

学習目標・到達目標

江戸の生活文化史文献の読み方を会得すること

準備学習

準備学習としては、漢和辞書・国語辞書を頻繁にひくのでよく予習をしてください。

評価方法その他

平常点20%、レポートまたは試験80%。平常点は授業への参加などで総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1「浮世風呂」(1)作者と時代背景

2「浮世風呂」(2)教育問題

3「浮世風呂」(3)女性

4「浮世風呂」(4)伊勢商人

5「浮世風呂」(5)相続

6　都市問題と経済(1)幕藩体制と中央市場

7　都市問題と経済(2)江戸の経済

8　都市問題と経済(3)環境型社会

9「近世風俗志」と江戸の食事(1)米

10「近世風俗志」と江戸の食事(2)醤油

11「近世風俗志」と江戸の食事(3)酒

12「近世風俗志」と江戸の食事(4)外食

13「近世風俗志」と江戸の食事(5)名物

14「近世風俗志」と江戸の食事(6)獣肉

15「近世風俗志」と江戸の食事(7)行事食

16　レポートまたは試験

使用教科書名

青木美智男『深読み浮世風呂』小学館

NO. 4051114　　生活文化史特論Ⅱ

小瀬　康行

授業科目概要・教育目的（履修条件）

わが国の博物館の望ましい姿を生活文化の面から考察する。近年、世界は産業を優先する社会から生活を重視する社会へと移行し始めているのにともない、博物館の資料に対する考え方にも大きな変化が見られるようになった。この辺りの現状について各種報告書を分析することにより多角的に議論を進めたい。

学習目標・到達目標

人間社会の変化は今や物質を中心に据える工業社会から心や生き方を優先する社会へと移行し生涯学習時代の到来となった。こうした変化は博物館の世界にも変革をもたらした。本講義ではわが国の博物館の形成プロセスを概観するとともに、博物館に関する報告書類を教材として現状を分析し、生涯学習と生活文化を理解する場としての新しい博物館の在り方について理解することをめざす。

準備学習

博物館に関する基礎知識があることが望ましい。

評価方法その他

平常点(50%)、レポート(50%)
(平常点は授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 博物館の定義と法
2. 統計からみるわが国の博物館:
3. 明治時代以前:遣米使節団がみた博物館
4. 明治時代の博物館(1):
   博覧会の開催と博物館の設置
5. 明治時代の博物館(2):
   中央と地方の教育博物館と生活文化
6. 明治時代の博物館(3):博物館設置構想と運営
7. 大正時代の博物館(1):
   人々の生活と通俗博物館の意義
8. 大正時代の博物館(2):特別展覧会と物産陳列所
9. 昭和時代の博物館(1):
   戦前における博物館令制定
10. 昭和時代の博物館(2):
   戦後の新しい博物館の特質と文化背景
11. 新しい博物館の考え方(1):
   「対話と連携」の社会背景とヴィジョン
12. 新しい博物館の考え方(2):基盤整備への取り組み
13. 事例報告(1)
14. 事例報告(2)

使用教科書名

授業中に配布する資料を使用する。

NO. 4051115　　生活文化特論

西海　賢二

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「生活用具」としての民具を通して近世・近代・現代の女性たちの営みを紹介することを目的として具体的には近世の女性が使用した民具、近代の女性が使用した民具、そして現代の女性が使用してきた民具から世相を読み直してみたい。

学習目標・到達目標

生活文化特論では生活と造形という問題で日本各地の事例から「生活文化論」を紹介します。とくに生活文化のなかで比較的男性を中心に把握しようとすることを反省して、とくに女性の「家」における文化論として、これまでほとんど見返すことのなかった「生活用具」を中心に民具というものを通して日本の近代社会を垣間見ることを目的としたい。

準備学習

評価方法その他

週　テーマ・授業目標等

具体的には「生活用具」の民具を通して地域性、

時代性などを紹介に努める。なかでも私がこの四十年来

調査の対象としてきた奥三河（東海学という視点に留意）

の女性たちが日常生活のなかで使用した民具1000店

ほどを紹介するとともに、民具という物質文化だけでなく、

文献、伝承なども併せて紹介することによって地域の

在り方を紹介する。

これが今日とりあげつつある「地域創生」にも展開していく

ことを提示する。

使用教科書名

NO. 4051116　　言語文化特論

内田　宗一

授業科目概要・教育目的（履修条件）

日本語による言語生活や言語芸術における文化的側面について、講説を行う。前半は、日本文学を対象として、人のくらしを文化的・社会的に解読する。研究するにあたって必要な文献の取り扱いについて習熟するとともに、文学を通して見出される、多様に広がる人間生活の営みについて解析する力を養う。後半は、日本語研究の立場から、文字・表記の問題について言語と文化的背景との関連に注目しつつ講説する。

学習目標・到達目標

日本語による言語生活における文化的観点からの知見を得て、自らの力で問題を提起・考察することができることを第一の目標とし、さらに、その考察をまとめ上げる文章力を養うことが第二の目標となる。

準備学習

授業の性質上、近世以前の日本語文献を読解する内容を含むため、古典文法に関する基本的知識（高等学校レベル）を身につけておくことが求められる。

評価方法その他

平常点20%、前半のレポート40%、期末試験（論述式）40%。平常点は授業への参加状況、討論への参加等で総合的に判断する。なお、出欠は毎回確認する。

週　テーマ・授業目標等

1.言語文化の地平（総論）

2.平安時代の文学作品に見える諸問題1

3.平安時代の文学作品に見える諸問題2

4.平安時代の文学作品に見える諸問題3

5.平安時代の文学作品に見える諸問題4

6.近現代の文学作品に見える諸問題1

7.近現代の文学作品に見える諸問題2

8.近現代の文学作品に見える諸問題3

9.文字の本質と機能

10.文字の分類

11.文字と文化

12.日本語の文字・表記1　特質

13.日本語の文字・表記2　漢字

14.日本語の文字・表記3　平仮名

15.日本語の文字・表記4　片仮名

16.期末試験

使用教科書名

井上・下鳥・鈴木編『平安後期文学』翰林書房　2012年、教室にて頒布1000円。（前半の授業にて使用する。）

NO. 4051117　　現代家政特論演習Ａ

現代家政学科　教員

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代家政学講座における「食文化」「リビング」「ファッション」「総合家政」各分野にわたる学びについて、問題意識や理解をさらに深めることをめざす。授業内容としては、現代家政学についての総合的な知識を習得することを目的として、現代家政学講座における多岐にわたる研究分野に関する授業を行う。または、受講生各自の研究テーマに関する専門的な知識を習得することを目的として、特定の領域に特化した授業を行うことも可能である。履修にあたっては、研究指導担当教員と相談して授業内容を選択することができる。

学習目標・到達目標

現代家政学講座における「食文化」「リビング」「ファッション」「総合家政」各分野にわたる学びについて、問題意識や理解をさらに深めることをめざす。

準備学習

本授業科目の履修に際しては、事前に必ず研究指導担当教員と相談し、授業内容を選択すること。

評価方法その他

平常点50%、レポート50%。平常点は授業への参加状況、作業への取り組み等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス、課題説明
2 衣服環境の快適性1(植竹)
3 ファッションの表象1(山村)
4 食生活と健康1(三宅)
5 建築保存とまちづくり1(大橋)
6 現代における江戸の食文化1(熊井)
7 物質文化と保存環境1(小瀬)
8 歴史民俗資料論の展開1(西海)
9 日本文学からくらしの諸相を読み解く1(井上)
10 日本語と文化1(内田)
11 情報化と生活の質1(小池)
12 意思決定のモデル化1(新田)
13 受講生による研究発表と討議1
14 受講生による研究発表と討議2
15 受講生による研究発表と討議3

使用教科書名

特に指定しない。

NO. 4051118　　現代家政特論演習Ｂ

現代家政学科　教員

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代家政学講座における「食文化」「リビング」「ファッション」「総合家政」各分野にわたる学びについて、問題意識や理解をさらに深めることをめざす。授業内容としては、現代家政学についての総合的な知識を習得することを目的として、現代家政学講座における多岐にわたる研究分野に関する授業を行う。または、受講生各自の研究テーマに関する専門的な知識を習得することを目的として、特定の領域に特化した授業を行うことも可能である。履修にあたっては、研究指導担当教員と相談して授業内容を選択することができる。

学習目標・到達目標

現代家政学講座における「食文化」「リビング」「ファッション」「総合家政」各分野にわたる学びについて、問題意識や理解をさらに深めることをめざす。

準備学習

本授業科目の履修に際しては、事前に必ず研究指導担当教員と相談し、授業内容を選択すること。

評価方法その他

平常点50%、レポート50%。平常点は授業への参加状況、作業への取り組み等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス、課題説明
2 衣服環境の快適性2(植竹)
3 ファッションの表象2(山村)
4 食生活と健康2(三宅)
5 建築保存とまちづくり2(大橋)
6 現代における江戸の食文化2(熊井)
7 物質文化と保存環境2(小瀬)
8 歴史民俗資料論の展開2(西海)
9 日本文学からくらしの諸相を読み解く2(井上)
10 日本語と文化2(内田)
11 情報化と生活の質2(小池)
12 意思決定のモデル化2(新田)
13 受講生による研究発表と討議1
14 受講生による研究発表と討議2
15 受講生による研究発表と討議3

使用教科書名

特に指定しない。

NO. 4051119　現代家政特論演習C

現代家政学科　教員

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代家政学講座における「食文化」「リビング」「ファッション」「総合家政」各分野にわたる学びについて、問題意識や理解をさらに深めることをめざす。授業内容としては、現代家政学についての総合的な知識を習得することを目的として、現代家政学講座における多岐にわたる研究分野に関する授業を行う。または、受講生各自の研究テーマに関する専門的な知識を習得することを目的として、特定の領域に特化した授業を行うことも可能である。履修にあたっては、研究指導担当教員と相談して授業内容を選択することができる。

学習目標・到達目標

現代家政学講座における「食文化」「リビング」「ファッション」「総合家政」各分野にわたる学びについて、問題意識や理解をさらに深めることをめざす。

準備学習

本授業科目の履修に際しては、事前に必ず研究指導担当教員と相談し、授業内容を選択すること。

評価方法その他

平常点50%、レポート50%。平常点は授業への参加状況、作業への取り組み等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス、課題説明
2 衣服環境の快適性3(植竹)
3 ファッションの表象3(山村)
4 食生活と健康3(三宅)
5 建築保存とまちづくり3(大橋)
6 現代における江戸の食文化3(熊井)
7 物質文化と保存環境3(小瀬)
8 歴史民俗資料論の展開3(西海)
9 日本文学からくらしの諸相を読み解く3(井上)
10 日本語と文化3(内田)
11 情報化と生活の質3(小池)
12 意思決定のモデル化3(新田)
13 受講生による研究発表と討議1
14 受講生による研究発表と討議2
15 受講生による研究発表と討議3

使用教科書名

特に指定しない。

NO. 4051120　現代家政特論演習D

現代家政学科　教員

授業科目概要・教育目的（履修条件）

現代家政学講座における「食文化」「リビング」「ファッション」「総合家政」各分野にわたる学びについて、問題意識や理解をさらに深めることをめざす。授業内容としては、現代家政学についての総合的な知識を習得することを目的として、現代家政学講座における多岐にわたる研究分野に関する授業を行う。または、受講生各自の研究テーマに関する専門的な知識を習得することを目的として、特定の領域に特化した授業を行うことも可能である。履修にあたっては、研究指導担当教員と相談して授業内容を選択することができる。

学習目標・到達目標

現代家政学講座における「食文化」「リビング」「ファッション」「総合家政」各分野にわたる学びについて、問題意識や理解をさらに深めることをめざす。

準備学習

本授業科目の履修に際しては、事前に必ず研究指導担当教員と相談し、授業内容を選択すること。

評価方法その他

平常点50%、レポート50%。平常点は授業への参加状況、作業への取り組み等で総合的に判断する。

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス、課題説明
2 衣服環境の快適性4(植竹)
3 ファッションの表象4(山村)
4 食生活と健康4(三宅)
5 建築保存とまちづくり4(大橋)
6 現代における江戸の食文化4(熊井)
7 物質文化と保存環境4(小瀬)
8 歴史民俗資料論の展開4(西海)
9 日本文学からくらしの諸相を読み解く4(井上)
10 日本語と文化4(内田)
11 情報化と生活の質4(小池)
12 意思決定のモデル化4(新田)
13 受講生による研究発表と討議1
14 受講生による研究発表と討議2
15 受講生による研究発表と討議3

使用教科書名

特に指定しない。

NO. 4051201　　調理学特論

四十九院　成子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

調理するという操作は、食品に物理的・化学的な変化を加えて、その中に含まれる栄養素をはじめとする様々な成分を人間の嗜好を満足させる食べ物に変え、同時に消化吸収性や生体調節機能を高めるという機能を持っている。また、嗜好と密接な関係にある呈味性成分はエネルギー源となる高分子成分(糖質・脂質・たんぱく質)が低分子化したものであることから、味は栄養素の存在を示すシグナルともいわれる。本論では、食品に加えられる操作による食品成分の変化を、おいしさと機能性という視点からも考える
。

学習目標・到達目標

日常調理や食体験の中から問題点を見つけ出しそれを解決へと結びつける科学的視点を持てるようにしたい。

準備学習

食品学、調理学、栄養学、生化学等の分野を学んでいること。

評価方法その他

毎回のディスカッションとレポート、出席を総合評価する。

週　テーマ・授業目標等

第1週：ガイダンス

第2週：調理の役割

第3週：調理機能と酵素

第4週：調理と酵素

第5週：穀類の調理と調理機能①

第6週：穀類の調理と調理機能②

第7週：豆類の調理と調理機能

第8週：いも類の調理と調理機能

第9週：ゼリー類の調理と調理機能

第10週：たんぱく質性食品の調理と調理機能①

第11週：たんぱく質性食品の調理と調理機能②

第12週：だし汁やソースの調理と調理機能

第13週：講義に関連する論文文献の検索とまとめ①

第14週：講義に関連する論文文献の検索とまとめ②

第15週：総括

使用教科書名

毎回のプリントなど

NO. 4051202　　調理機能学特論演習

四十九院　成子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

調理学特論での学びを基に、人間と食べ物との関わりについて考えるとき、食べ物の持つ人間の健康の保持・増進という生理的側面と、充実感や満足感といった精神的な側面からとらえることができる。この両面について現代の科学的視点から考究していく。また、修士論文作成に反映できるように内外の研究成果について学ぶ。

学習目標・到達目標

修論関連分野の内容を深く理解出来るように内外の研究成果について学び、応用力にもつなげられるようにする。

準備学習

主として調理科学関連分野の修士論文をまとめる学生を対象とするが、本分野に関心のある学生は相談すること。

評価方法その他

毎回のディスカッションとレポート、出席を総合評価する。

週　テーマ・授業目標等

第1週：ガイダンス

第2週：食生活における調理と栄養・機能性との関連

第3週：動物性食品の調理性と栄養効果①

第4週：動物性食品の調理性と栄養効果に関する論文等研究①

第5週：動物性食品の調理性と栄養効果に関する論文等研究②

第6週：動物性食品の調理性と栄養効果に関する論文等研究③

第7週：植物性食品の調理性と栄養効果に関する論文等研究①

第8週：植物性食品の調理性と栄養効果に関する論文等研究②

第9週：植物性食品の調理性と栄養効果に関する論文等研究③

第10週：その他の食品と調理による栄養効果に関する
論文等研究①

第11週：その他の食品と調理による栄養効果に関する
論文等研究②

第12週：その他の食品と調理による栄養効果に関する
論文等研究③

第13週：全体討論①

第14週：全体討論②

第15週：総括

使用教科書名

毎回のプリント

NO. 4051203　　応用食品学特論

林　一也

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食物は，人間にとって欠かすことのできないものである。食品学的には単に穀類の米として扱われるものも，様々な品種があり，栽培法も異なる。同じ野菜でも産地や栽培の仕方で成分も変わってくる。このように多様な食品群の生産，栽培を含め本質を知ることで，単に米も違った角度で見ることができる。
このように食品の様々な事項，伝統食品の加工など食の歴史を含めたものを学び，食とは何かを考える。

学習目標・到達目標

食物は，人間にとって欠かすことのできないものである。食品学的には単に穀類の米として扱われるものも，様々な品種があり，栽培法も異なる。同じ野菜でも産地や栽培の仕方で成分も変わってくる。このように多様な食品群の生産，栽培を含め，様々な食品の事項を知ることで，食品とは何かの本質を考察する。

準備学習

評価方法その他

授業とレポートで成績を判定する。

週　テーマ・授業目標等

第1回　食とは何か

第2回　農産物

第3回　農産物

第4回　農産物

第5回　畜産物

第6回　畜産物

第7回　水産物

第8回　水産物

第9回　伝統食品と文化

第10回　伝統食品と文化

第11回　伝統食品と文化

第12回　食品加工技術

第13回　食品加工技術

第14回　食品保存の技術

第15回　食品の新技術

使用教科書名

NO. 4051204　　食品機能学特論

海野　知紀

授業科目概要・教育目的（履修条件）

ヒトにおける食生活の重要性は，食品の第三次機能に代表されるように，健康の維持・増進を目標とするQuality of lifeの向上にある。本講義は，生命を維持する栄養素，健康増進のための食品成分の機能について，最近のトピックスを含めて解説するとともに，これらの基礎的知識を栄養教育領域へと発展させて考える。

学習目標・到達目標

食品の第三次機能（生体調節機能）に着目して商品設計されている，いわゆる健康食品から法的に整備されている保健機能食品（栄養機能食品，特定保健用食品），機能性表示食品について，その利用の利点等について的確に理解する。

準備学習

現在上市されている特定保健用食品など，食品成分の機能性について様々な情報入手のためのツールを用いて調査し，判断できることが望ましい。

評価方法その他

レポート（50%）、平常点（50%）
（平常点は授業への参加状況・理解度で総合的に判断する）

週　テーマ・授業目標等

1. 食品の機能性研究の概要1
2. 食品の機能性研究の概要2
3. 食品表示法の概要
4. 保健機能食品制度（栄養機能食品）
5. 保健機能食品制度（特定保健用食品）
6. 機能性表示食品制度
7. 機能性を有する食品成分（難消化性糖質）
8. 機能性を有する食品成分（脂肪酸・ステロール）
9. 機能性を有する食品成分（タンパク質・ペプチド）
10. 機能性を有する食品成分（ポリフェノール）
11. 機能性を有する食品成分（ミネラル）
12. 機能性を有する食品成分（その他）
13. いわゆる健康食品1
14. いわゆる健康食品2
15. 海外の食品表示の概要

使用教科書名

プリントを配布

NO. 4051205　食品微生物学特論

林　一也

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人が微生物を学問として認識する以前から人は、良きにつけ、悪きにつけ、微生物から多くの影響を受けてきた。一つには疾病。もう一つには発酵食品。人は微生物を知る前から微生物を利用し食品をつくり、微生物による病気と闘ってきた歴史がある。近年は、微生物を利用したバイオテクノロジーのよる物質生産、さらに環境浄化への微生物利用など微生物の応用分野は広がりを続けている。微生物と人との様々な関わりについて学び、私たちの生活のなかで微生物を利用する上での知識を確立することを目的とする。

学習目標・到達目標

微生物に関する理解と知識の集積を行う。そのことで人類と微生物の関わりのプラスの面，マイナスの面の双方をコントロールしながら，様々な面での微生物利用を考察する能力を磨く。

準備学習

評価方法その他

出席とレポートで判定する。

週　テーマ・授業目標等

第1回 微生物はどんな生物か

第2回　微生物の種類と性質

第3回　微生物の種類と性質

第4回　微生物の種類と性質

第5回　微生物の種類と性質

第6回　微生物の利用

第7回　微生物の利用

第8回　微生物の利用

第9回 家庭環境と微生物

第10回家庭環境と微生物

第11回社会環境と微生物

第12回社会環境と微生物

第13回自然環境と微生物

第14回自然環境と微生物

第15回バイオレメディエーションと極限環境微生物

使用教科書名

NO. 4051206　臨床栄養学特論

金澤　良枝

授業科目概要・教育目的（履修条件）

臨床栄養学特論では、代謝栄養、内分泌、消化器、循環器、腎臓、呼吸器など幅広い疾患に対する栄養治療について学ぶ。また、管理栄養士として、患者指導にも役立つアプローチを考察する。

学習目標・到達目標

臨床現場で必要な知識と、患者指導方法について学ぶ。

準備学習

臨床栄養学をより深く勉強しましょう。

評価方法その他

出席（20%）、レポート（80%）の総合評価

週　テーマ・授業目標等

1　栄養アセスメントとカルテの記録1

2　栄養アセスメントとカルテの記録2

3　栄養補給法

4　病態栄養と栄養療法1

5　病態栄養と栄養療法2

6　病態栄養と栄養療法3

7　病態栄養と栄養療法4

8　病態栄養と栄養療法5

9　病態栄養教育

10　文献購読・考察

11　文献購読・考察

12　文献購読・考察

13　文献購読・考察

14　文献購読・考察

15　文献購読・考察

使用教科書名

病態栄養ガイドブック

NO. 4051207　　臨床栄養学特論演習

金澤　良枝

授業科目概要・教育目的（履修条件）

臨床栄養学特論で学んだことを基礎に、患者指導に結び付けることを目的に、栄養アセスメント、マネジメント演習を行う。

学習目標・到達目標

臨床現場で必要な知識と、患者指導方法について学ぶ。

準備学習

臨床栄養学を演習を通してより深く学びましょう。

評価方法その他

出席（20%）、レポート（80%）の総合評価

週　テーマ・授業目標等

1 代謝系疾患の栄養アセスメントとマネジメント

2 代謝系疾患の栄養アセスメントとマネジメント

3 代謝系疾患の栄養アセスメントとマネジメント

4 腎臓疾患の栄養アセスメントとマネジメント

5 腎臓疾患の栄養アセスメントとマネジメント

6 消化器系疾患の栄養アセスメントとマネジメント

7 消化器系疾患の栄養アセスメントとマネジメント

8 循環器系疾患の栄養アセスメントとマネジメント

9 循環器系疾患の栄養アセスメントとマネジメント

10 文献抄読・考察

11 文献抄読・考察

12 文献抄読・考察

13 文献抄読・考察

14 文献抄読・考察

15 文献抄読・考察

使用教科書名

病態栄養ガイドブック

NO. 4051208　　公衆栄養学特論

田中　弘之

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養・食生活分野の目標設定に際して、最終目標である健康及びQOLの向上のためには、
1.「栄養状態」をより良くするための「適正な栄養素（食物）摂取」
2. 適正な栄養素（食物）摂取のための「行動変容」
3. 個人の行動変容を支援するための「環境づくり」
が必要であることから、健康・栄養課題の明確化とPDCAサイクルに基づき、優先的な健康・栄養課題を明確にし、健康栄養情報を収集・整理し、総合的に分析する。明確化された健康・栄養課題の解決に向け、計画を策定し、その計画においての成果が評価できるよう、目標を設定する。

学習目標・到達目標

栄養・食生活は、多くの生活習慣病との関連が深く、また日々の生活の中でQOLとの関連も深い。そこで健康及びQOLの向上を図るために、身体的、精神的、社会的に良好な食生活の実現を図るために、健康・栄養状態の是正を図り、良好な食生活を実践できる力を育み、発揮できることを目的とする。

準備学習

評価方法その他

レポート

週　テーマ・授業目標等

1)政策、公共政策と健康政策

2)政策サイクル

3)人口学および人口統計

4)健康に関する複合指標

5)効果についての疫学指標

6)集団の健康データ

7)集団の健康評価

8)介入効果の予測

9)政策への適合性評価

10)政策の選択

11)予防と疾病管理

12)政策の目標設定

13)政策の評価

14)実例検討

15)まとめ

使用教科書名

NO. 4051209　　栄養教育特論

辻　雅子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養教育研究においては、人の各成長段階に応じて、健康的な生活と健康の維持・増進を目的として、食生活や生活習慣活動全般の在り方について探求しつつ、各対象者への最適でかつ効果的な栄養教育方法について研究することが重要である。栄養教育特論では、対象特性別の把握の重要性について学び、科学的かつ実践的な栄養教育計画の在り方について学ぶことを目的とする。

学習目標・到達目標

現代の健康・栄養教育の目指す方向性を、現代の健康や栄養上の問題点を参考に、栄養教育の必要性・意義・目的を理解する。さらに、適切な栄養教育マネジメントを実施できるようにアセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解し、健康・栄養教育に必要な基本的手順を理解することを目的とする。

準備学習

評価方法その他

平常点20%、レポートや課題について総合評価が80%

週　テーマ・授業目標等

1 健康教育と栄養教育

2 栄養教育の意義

3 人間の食行動と教育

4 食育と教育学

5 子供たちの発達と食育

6 学童・思春期の発達と食育

7 成人期の身体と栄養教育特性

8 成人期の身体と栄養教育特性

9 臨床における身体と栄養教育特性

10 栄養教育の教育計画

11 栄養教育と行動科学

12 教育の評価

13 栄養教育の教育評価

14 栄養教育の教育評価事例-1

15 栄養教育の教育評価事例-2

16 まとめ

使用教科書名

特に定めない

NO. 4051210　　栄養教育特論演習

辻　雅子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

対象特性別に最適でより有効的な栄養教育の方法についてを学ぶものとする。栄養教育の実践例を参考に考察し理解を深める。また、実践可能な具体性に富む教育計画の立案方法、および教育の実施方法について学ぶ。また、教育効果を高める教材についても検討する。さらに、邦文・英文誌の論文抄読・考察を通じて、栄養教育学の研究方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

実際に実施された栄養教育実践例について、なぜその対象者にその計画・方法が用いられたのか、また、その方法が有効だったのか等の考察を行うことを目的とする。特に対象者特性別における健康・栄養教育の事例を客観的かつ理論的に評価することができ、テーマに従って改善プランの計画案が作成できるように検討を加えられる様になることを目標とする。

準備学習

評価方法その他

平常点20%、レポート等提出物の評価80%

週　テーマ・授業目標等

1 栄養教育における対象者把握の方法－I

2 栄養教育における対象者把握の実際例－II

3 栄養教育の実施方法

4 栄養教育の実践例－I

5 栄養教育の実践例－II

6 栄養教育の評価－I

7 栄養教育の評価－II

8 栄養教育の評価－III

9 邦文誌の論文抄読・考察

10 邦文誌の論文抄読・考察

11 邦文誌の論文抄読・考察

12 英文誌の論文抄読・考察

13 英文誌の論文抄読・考察

14 英文誌の論文抄読・考察

15 まとめ

使用教科書名

特になし

NO. 4051211　　地域栄養教育特論

酒井　治子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

公衆栄養学の観点から地域診断を行い、対象者のニーズアセスメントの手法を身につけ、それに基づいて学校を拠点に組み込んだ地域栄養計画策定や食に関する計画も視野に入れながら考案できる力を修得し、集団の栄養問題、社会ニーズを把握する為の方法論を学ぶ。社会資源との連携（家庭・地域住民参加）科学的根拠に基づいた計画・実施、個人・環境アプローチの組合せ、評価計画の作成等を進めていく。乳幼児期から成人・高齢者までの人生のライフステージの特徴に応じて、食・栄養教育の多様な展開のあり方を探求する。複数の海外論文をもとに、食・栄養教育のプログラムとその評価を比較検討する。

学習目標・到達目標

行動科学理論・モデルの理解、介入研究の計画方法と留意点等、栄養教育・食教育研究に必要な基礎的事項を理解し、先行研究を批判的に読むことのできる力をつける。

準備学習

評価方法その他

週　テーマ・授業目標等

1. 地域における栄養教育の意義と理論モデル
2. 国の政策と地域の栄養計画
3. 地域栄養計画の策定手順と体制づくり
4. 家庭や地域の社会資源の活用とニーズアセスメント
5. グループインタビュー法を用いた社会診断
6. 既存資料の収集と、児童・生徒の健康課題の抽出
7. 質問紙法を用いた児童・生徒のQOL，健康課題に関連する食行動・態度・知識等
8. 優先課題の抽出と目標設定の診断
9. 事業計画への展開
10. 教育評価方法
11. 地域を拠点とした栄養教育と評価1
12. 地域を拠点とした栄養教育と評価2
13. 地域を拠点とした栄養教育と評価3
14. 地域を拠点とした栄養教育と評価4
15. まとめ

使用教科書名

平成21年度フードサービスを活用した栄養教育に関する文献講読を行う。

NO. 4051212　　生化学特論

馬場　修

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食と健康増進の観点から、ヒトにおける様々な生命現象について生体成分がどの様にして代謝されていくのか、また、食品、食物中の栄養成分ならびに機能性成分が生命活動や体の恒常性機能に対してどのような機序で働いているのか解説する。

学習目標・到達目標

生体物質の構造と機能を理解し、栄養成分ならびに機能性成分が生命活動や体の恒常性機能に対してどのような機序で働いているのか、役割を理解できることを学習目標にし、食品・食物と恒常性維持「健康」が体機能の相互バランスの上に成り立っていることを生化学を視点とした立場から最新のトピックスを交えて教授してゆく。

準備学習

基礎となる分野なのでじっくり取り組んで下さい。

評価方法その他

課題、試験等による総合評価

週　テーマ・授業目標等

1. 生化学特論とは
2. 糖質の話題と研究(第2~5週)
3. 脂質の話題と研究(第6~8週)
4. タンパク質の話題と研究(第9週~11週)
5. 栄養素・非栄養素と生体機能（第12週～15週）
5.

使用教科書名

適宜指定する

NO. 4051214　　病態生理学特論

朝山　光太郎

授業科目概要・教育目的（履修条件）

発達生物学、特に栄養学とそれに関連した病態生理について学習し、各段階における問題点に理解を深め、実際に役に立つ知識を身につける。成長、発達、生活習慣病に関して、エピジェネティックな側面も含めて取り上げる。周産期における母体の栄養と児の発達にかかわる問題、新生児の未熟性、授乳期および母乳栄養や離乳の生理学的問題と食事アレルギー、幼児期の食育と生活習慣病、学童期から思春期にいたる成長期における諸問題、成人期、更年期、高齢者などのライフステージにおける生理学的問題や生活習慣病につき理解を深める。

学習目標・到達目標

ライフステージ全般における病態生理と生活習慣病の関係について、正しく理解し、管理栄養士としての幅広い活動に的確に応用する素養を身につける。

準備学習

評価方法その他

平常の授業中の評価(50%)、口頭試問による評価(50%)

週　テーマ・授業目標等

1.妊娠期、分娩、産褥期の病態生理と栄養
2.周産期におけるエピジェネティックとしての母体と胎児、生活習慣病の関連性
3.正常新生児、未熟児、新生児の病態生理と合併症の問題
4.母乳および調製粉乳の生化学と母乳栄養と人工栄養の病態生理学
5.乳児期の栄養、離乳食、食事アレルギーに関連した病態生理学
6.幼児期の生理学的発達。特にアディポシティ・リバウンドに注目して
7.学童期から思春期における成長発達の病態生理
8.学童期から思春期における病態生理と食育上の問題
9.小児肥満症、小児メタボリックシンドローム
10.小児の1型糖尿病の病態生理とサマーキャンプの実態
11.運動生理学と栄養の関係
12.成人期の生活習慣と生活習慣病の病態生理
13.生活習慣病におけるアディポサイトカインなどの生理活性因子の変動
14.更年期の病態生理、栄養学的問題と、小児期からの栄養対策について
15.老化の病態生理と高齢期における身体・精神的変化
16.試験（口頭試問）

使用教科書名

適宜資料を配付

NO. 4051216　　ヘルスプロモーション特論

松田　正己

授業科目概要・教育目的（履修条件）

学習内容は、ヘルスプロモーション、健康教育の理論と実践について、世界の動向を踏まえて、プライマリーヘルスケアと生命倫理の視点から概説する。個別のテーマ（教科書の第Ⅱ部4-5章、第Ⅲ部、第Ⅳ部、第Ⅴ部の各章）として、グループ学習の成果発表で、災害といのち、原発と栄養・いのち、難病、精神障害といのち・健康、老い、生、死、パレスチナ難民といのち、エイズといのち、タイのUHC国民皆保険、子どもの虐待と里親、食といのち、良い看護と西田哲学、等について学習し、ヘルスプロモーションの展開プロセスと新しい健康教育を学ぶ。

学習目標・到達目標

人々が健康に生活していくための方法論の一つとして、ヘルスプロモーションと健康教育の理論的な方法と実践方法を、具体的な各分野の学習を通じて、身につける。

準備学習

評価方法その他

出席とグループの発表内容、レポート、等で評価する。試験はしない。

週　テーマ・授業目標等

話題提供だけではなく、学生の主体的な授業への参画を求める。始めにグループ分け（興味のあるテーマにより）を行い、そのグループによる相互討論を行い、講義でその成果（教科書より2/3、他の情報より1/3）をパワーポイント（12枚）等でまとめたものを検討し、修正の上、印刷資料と共に、全員の前で発表する。その後に学習内容をまとめる。

使用教科書名

松田正己編著、いのちの地域ケア（第3版）、やどかり出版、2014

NO. 4051217　　国際保健学特論

松田　正己

授業科目概要・教育目的（履修条件）

国際感染症として、結核、エイズ等を取り上げる。また、国際保健のマネジメントも学習し、地域及び、疾病単位の国際保健を総合する方法を修得する。更に、最近のプライマリ・ヘルス・ケアの動向（WHO世界保健報告2008）やその事例としてのタイの地方自治・地域看護・保健ケアシステム、NCD（非感染症、肥満などの生活習慣病）対策の重要性、UHC（国民皆保険などのユニバーサル・ヘルス）についてとりあげる。

学習目標・到達目標

国際保健分野における国際協力活動の進め方について理解する。アジアにおける先進国として、わが国の国際社会における責務は年々増加し、近隣の諸外国からの期待も増大してきている。現在わが国は世界有数の海外援助国になっているが、その具体的な活動や国際保健の協力状況にはさまざまな問題点が指摘されている。そこで、国際保健分野における国際協力活動（国際機関、政府機関、NGO）の進め方について、現状と歴史、保健問題に関する理解や必要な知識について具体的な事例（ケーススタディ）を東南アジア

準備学習

国際保健協力の経験は問わないが、海外渡航の経験のあるものは活動記録等を持参されたい。

評価方法その他

各自がテーマを設定し、報告したものをレポートとして提出し、その内容を評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 国際社会における保健問題
2. 国際保健協力の歴史と現状
3. わが国の国際保健協力の現状1：ODAの現状、JICAによる活動状況
4. わが国の国際保健協力の現状2：NGO活動の現状
5. 国際感染症の現状1（結核）
6. 国際感染症の現状2（エイズ）
7. ケーススタディ1：東南アジアにおける活動と問題点
8. ケーススタディ2：中国における活動と問題点
9. ケーススタディ3：ラテンアメリカにおける活動と問題点
10. ケーススタディ4：アフリカにおける活動と問題点
11. 国際保健のマネジメント
12. 将来における国際保健協力の進め方
13. 最近のプライマリ・ヘルス・ケアの動向（WHO世界保健報告2008）
14. PHC2008とタイの地方自治・地域看護・保健ケアシステム

使用教科書名

松田正己、奥野ひろみ、小山修、藤井達也、菅原スミ編、変わりゆく世界と21世紀の地域健康づくり(第3版)、やどかり出版、2010

NO. 4051218　　小児保健学特論

朝山　光太郎

授業科目概要・教育目的（履修条件）

小児期の保健と健康管理について学ぶ。小児期の身体的、精神的、成長と発達および、小児期に特徴的な疾患について、ある程度専門的なレベルで重点的に学習する。小児の養育に関わる上で、指導的な立場として概観できる素養を身につける。

学習目標・到達目標

小児保健学のうち、特に重要な部分について、大学院研究科にふさわしいレベルの理解を得ることを目標とする。

準備学習

小児の成長発達について理解するために、自ら課題を設けて積極的な学習を行うことを望んでいる。長い小児科臨床経験から引き出せる知識を最大限に吸収して欲しい。

評価方法その他

平常の授業中の評価(50%)、口頭試問(50%)で評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. 小児の身体発育
2. 小児の生理機能
3. 小児の運動機能
4. 小児の精神発達
5. 周産期、新生児期の問題点（未熟児、エピジェネティクを含む）
6. 乳児期、学童期の栄養と成長
7. 思春期の成長、栄養と問題点
8. 事故と応急処置
9. 感染症と予防接種
10. 小児期の病気：感染症・下痢・アレルギー疾患、消化器病
11. 小児期の病気：呼吸循環器・血液・腎臓・内分泌・代謝病
12. 小児期の病気：皮膚・運動器・感覚器の病気・悪性腫瘍・川崎病など
13. 小児の病気：神経精神疾患（ダウン症を含む）
14. 小児の病気：学習障害・発達障害など
15. 小児の虐待とその対応法
16. 試験（口頭試問）

使用教科書名

子どもの保健(第5版)/巷野悟郎編/診断と治療社/2015年
他に適宜配付資料を用いて授業を行う。

NO. 4051219　　運動栄養学特論

吉田　博幸

授業科目概要・教育目的（履修条件）

競技種目ごとに異なるエネルギー供給の特性を理解し(ATP-PC系，乳酸系，有酸素系)，それぞれの競技におけるエネルギー消費の特徴を知る。そして，競技力を向上させるための方法を解説する。英語のテキストを読みながら解説を加える形の講義形式で授業を進める。

学習目標・到達目標

英語の文献を読んで理解する
スポーツにおける栄養素の働きを知り，競技力向上のためのトレーニング方法や栄養摂取の方法について理解する

準備学習

評価方法その他

通常評価

週　テーマ・授業目標等

1オリエンテーション

2ロー・パワー種目の運動生理学的特性

3ハイ・パワー種目の運動生理学的特性

4ミドル・パワー種目の運動生理学的特性

5スポーツ選手の体格と競技成績

6栄養とエネルギー輸送(糖質，脂質，たんぱく質)1

7栄養とエネルギー輸送(糖質，脂質，たんぱく質)2

8栄養とエネルギー輸送(ミネラル)1

9栄養とエネルギー輸送(ミネラル)2

10ロー・パワーのトレーニング

11ハイ・パワーのトレーニング

12ミドル・パワーのトレーニング

13運動と環境

14ドーピング

15肥満と体重コントロール

16期末試験

使用教科書名

W.D.McArdle, F.I.Katch, and V.L.Katch : Essentials of Exercise Physiology.

NO. 4051220　　栄養管理学特論

吉野　知子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

栄養管理における栄養評価、栄養計画、食事計画についての基本的事項を修得した上で、対象者例を設定し、栄養ケア・マネジメントの手法を具体的に学び検討する。NSTに関わる他職種各々の専門性について学び協働の重要性を理解する。在宅の栄養管理における現状と問題点を社会的要因も踏まえ把握し、今後の課題と可能性について学ぶ。

学習目標・到達目標

栄養管理に関する基本的理論と実践法を修得する。資料や情報を正確に把握・分析し栄養ケア・マネジメントに的確に対応できる。他職種協働の一員としての専門性を追究し貢献できる。

準備学習

栄養ケア・マネジメントの基本は事前に理解している事。栄養管理の重要性と担う役割について、病院・施設だけでなく、今後必要性の高まる在宅の栄養管理についても興味と関心を持って受講してください。

評価方法その他

平常点(40%)、レポート(60%)の総合評価

週　テーマ・授業目標等

1.栄養ケア・マネジメントの概要

2.栄養スクリーニング

3.栄養アセスメントの方法と判定基準

4.栄養管理計画と食事摂取基準

5.食事計画

6.モニタリングと食事調査方法

7.評価方法

8.NSTにおける各職種の専門性と役割

9.NSTの実際

10.在宅における栄養管理の現状

11.在宅における栄養管理の問題点と課題

12.栄養ケア・マネジメント事例　病院

13.栄養ケア・マネジメント事例　施設

14.栄養ケア・マネジメント事例　在宅

15.関連する制度と社会的背景(診療報酬、介護報酬等)

使用教科書名

適宜プリント配付

NO. 4051221　食品・栄養英語文献査読演習

林　一也

授業科目概要・教育目的（履修条件）

論文テーマの研究に関する英語論文を読むことで，自らの研究テーマを発展させることを目的とする。研究の主たる指導教員により講義は実施される。

学習目標・到達目標

専門分野の英語論文をよみ，研究分野に知識を反映できるようにする。

準備学習

評価方法その他

出席とレポートで判定する。

週　テーマ・授業目標等

第1回から第15回　研究に関連する英語論文の読解

使用教科書名

NO. 4051301　食生活学特論

小口　悦子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間と食べ物との関わりについて考えるとき、食べ物の持つ役割を人間の健康の保持・増進という生理的側面と、充実感や満足感といった精神的な側面からとらえることができよう。伝統的な調理技術を文化的な側面から捉えるのみならず、現代の科学的視点から捉えることによって考究していく。

学習目標・到達目標

食べ物や食生活について、文化的、科学的視点で現状の分析と問題提起ができるようになること。

準備学習

食品学、調理学、栄養学等の分野を学んでいることが望ましい。

評価方法その他

毎回のディスカッションと試験・レポート、出席を総合評価する。

週　テーマ・授業目標等

第1週　序章　食生活の構成と現状

第2週　食生活における食育と調理の役割

第3週　家庭・学校・社会における食教育

第4週　食生活における調理と栄養・機能性との関連　1

第5週　食生活における調理と栄養・機能性との関連　2

第6週　食生活における調理と栄養・機能性との関連　3

第7週　現代の食生活の課題　1

第8週　現代の食生活の課題　2

第9週　伝統的食品の食文化　1

第10週　伝統的食品の食文化　2

第11週　伝統的食品の食文化　3

第12週　食文化と科学　1

第13週　食文化と科学　2

第14週　食文化と科学　3

第15週　まとめ

第16週　試験

使用教科書名

毎回の資料（プリント）。

NO. 4051302　　応用食品学演習

山﨑　薫

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品の多くは、生物資源を利用している。その生物本来の特性をうまく利用している例も多い。しかし、食品は生物資源だけを利用しているのではなく、無機物も少なからず利用している。また，最近では遺伝子組換え技術の進歩とともに，生物本来の特性を，目的に応じて改良・改変して利用する場合も増えてきている。さらに、食品・食料は、食品廃棄物、生態系保護、食糧資源の保護、農業生産など,様々な地球環境に関わる問題と複雑に絡みある。そこで，この授業では，食品資源学，食品環境学およびバイオテクノロジー分野の文献を講読し，その問題点を理解するとともに，研究の手法や展開の方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

地球上にある限りある生物資源を，私たちは食料としている。基本的に私たちは，他の生命を犠牲にして生活している従属生命体ある。このことを前提に，現在の地球環境や農業，漁業などの生産性など，様々な事象を通じて，食の問題点を等して見つめ直し，今後の研究への展開を探る。

準備学習

現在の「食」には，様々な問題があります。環境変化や食料生産，人口，さらには食べ残しや，食品偽装，食品で起きる危害。いろいろな問題点を通して，これからの「食」を考えてください。

評価方法その他

出席40%，レポート60%の総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1 食品資源学概説

2 食料資源学に関する論文の講読と解説(1)

3 食料資源学に関する論文の講読と解説(2)

4 食料資源学に関する論文の講読と解説(3)

5 食料資源学に関する論文の講読と解説(4)

6 食品環境学概説

7 食品環境学に関する論文の講読と解説(1)

8 食品環境学に関する論文の講読と解説(2)

9 食品環境学に関する論文の講読と解説(3)

10 バイオテクノロジー概説

11 バイオテクノロジーに関する論文の講読と解説(1)

12 バイオテクノロジーに関する論文の講読と解説(2)

13 バイオテクノロジーに関する論文の講読と解説(3)

14 バイオテクノロジーに関する論文の講読と解説(4)

15 まとめ

使用教科書名

指示した文献を入手して利用してもらいます。また，適宜，補足資料を配付します。

NO. 4051303　　食品機能学特論

奈良　一寛

授業科目概要・教育目的（履修条件）

食品には様々な機能があり，それらは一次機能である栄養機能，二次機能である嗜好機能，三次機能である生体調節機能に分けられる。本講義では，食品中に含まれる健康の維持・増進に役立つ各種成分（機能性食品成分）について解説する。 また，食品の生体調整機能に関する成分とメカニズム，またそれらの分析法について学ぶ。さらには最近の学術論文を講読し，理解するとともに，研究の手法や展開の方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

食品における機能性成分の生体調節作用を理解し，食生活の改善が疾病予防や健康増進に重要な役割を果たすことを認識できる。さらに食品機能に関する論文を理解でき、説明できることを目標とする。

準備学習

評価方法その他

出席40%，レポート60%の総合評価。

週　テーマ・授業目標等

1. ガイダンス

2. 食品機能学とは

3. 抗酸化機能　分析法と活性成分

4. 消化吸収促進と代謝改善機能

5. 難消化、吸収阻害および微生物活性機能

6. 脂質関連代謝機能

7. 酵素阻害、酵素活性化機能

8. 免疫系および神経系に及ぼす機能

9. 食品機能に関する論文の講読と解説(1)

10. 食品機能に関する論文の講読と解説(2)

11. 食品機能に関する論文の講読と解説(3)

12. 食品機能に関する論文の講読と発表(1)

13. 食品機能に関する論文の講読と発表(2)

14. 食品機能に関する論文の講読と発表(3)

15. まとめ

使用教科書名

適宜，補足資料を配付します。また，指示した文献を入手して利用してもらいます。

NO. 4051304　　食品科学特論

山﨑　薫

授業科目概要・教育目的（履修条件）

多種多様な食品に研究が行われる中、研究目的に応じて、どのような研究手法が用いられているのか等を解説し、受講生各自の研究にどう生かして行けるかを検討していく。そのために最新の研究論文等を活用していく。受講生にはディスカッションを通しての授業展開において、事前準備を基に積極的な授業参加を求める。

学習目標・到達目標

食品には、ヒトの生命維持として栄養素の補給源としてだけではなく、美味しさや楽しみという嗜好性の要素も求められ、また、機能性として健康に関する要素も多く求められるようになっている。加えて安全性や利便性も求められる。それらの要素はどの様な研究により成り立ち、確認され、応用されているのかを理解する。

準備学習

食品学、栄養学、食品衛生学等の学部生レベルの知識を有していることを前提に、化学や生化学の内容も加わり、授業展開を行います。事前に授業内で必要とする論文等を予習し、関連する論文等を自身で検索入手して活用して頂きます。

評価方法その他

出席40%、プレゼン・レポート等60%

週　テーマ・授業目標等

1.食品科学とは　本特論の授業展開の概要

2.食品成分分析領域①

3.食品成分分析領域②

4.食品成分分析領域③

5.総合討論

6.食品の嗜好性領域①

7.食品の嗜好性領域②

8.食品の嗜好性領域③

9.総合討論

10.食品のリスクマネジメント領域①

11.食品のリスクマネジメント領域②

12.食品のリスクマネジメント領域③

13.総合討論

14.まとめ　プレゼン①

15.まとめ　プレゼン②

使用教科書名

必要とする論文等を各自で入手してもらいます。必要に応じて関連文献も入手して下さい。

NO. 4051305　　衣設計学特論

藤田　恵子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

被服教育における婦人原型の製図法について、明治期の導入から現在までの約100年余りの洋装・既製服の普及などの社会現象や、雑誌・教科書などを資料にして、その発達の変化を背景から考察する。

学習目標・到達目標

一般的な衣服制作に使用される婦人原型の製図法について、その変遷を学ぶ。

準備学習

評価方法その他

平常点:40%、 課題:30%、 レポート:30%

週　テーマ・授業目標等

1. 婦人原型についてのオリエンテーション

2. 明治期における洋装

3. 明治期における洋服のパターン

4. 大正期～第二次大戦中の洋装

5. 大正期～第二次大戦中の原型製図

6. 第二次大戦後～1960年代の洋裁ブーム、

7. 第二次大戦後～1960年代の婦人原型

8. 1970年代～1990年代の人体計測研究、婦人原型研究

9. 1970年代～1990年代の婦人原型

10. 2000年代の婦人原型

11. 婦人原型製図の実習

12. 婦人原型製図の実習

13. 立体裁断法による婦人原型制作の実習

14. 立体裁断法による婦人原型制作の実習

15. 婦人原型の製図法と立体裁断法(まとめ)

使用教科書名

NO. 4051306　　衣環境学特論

藤居　眞理子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

快適な衣生活を支える衣服の管理について、特に洗浄の科学を論述し、省資源・省エネルギー・環境負荷低減の視点で考察する。

学習目標・到達目標

衣類を中心とした洗浄について、特に水系洗浄・洗剤の科学のメカニズムを理解し、時代のニーズに応じた洗濯について多角的に理解し、考察できる能力を養う

準備学習

評価方法その他

レポートと毎回のディスカッションによる平常点を総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

1. 「洗浄・洗剤の科学」序説―衣類を中心に―
2. 同上
3. 汚れの付着機構
4. 同上
5. .水系洗浄の科学1(衣料用洗剤の役割と機能)
6. 同上
7. 水系洗浄の科学2(洗浄のメカニズム)(藤居)
8. 同上
9. 水系洗浄の科学3(ビルダー、酵素等の役割と機能)
10. 同上
11. 水系洗浄の科学4(洗浄・洗剤の課題と今後の展望)
12. 同上
13. 非水系洗浄の科学
14. 同上
15. まとめ

使用教科書名

適宜、プリントを配布する

NO. 4051307　　住環境計画特論

椛田　考一

授業科目概要・教育目的（履修条件）

居住施設の環境形成について、物理的側面と行動・心理的側面からその形成過程を理解し、問題解決の手法を学ぶ。具体的には、居室空間の内外に形成される音環境，視環境，熱環境，空気環境と居住者の心理・生理反応や生活行動との関係を実測・調査し、そこに存在する問題点を発見するとともに、解決策を被験者実験やシミュレーションによって提案することを演習の目標とする。
［履修条件］ 建築環境学，建築設備分野の基礎を既に修得していること。

学習目標・到達目標

居住施設の環境形成について、物理的側面と行動・心理的側面からその形成過程を理解し、問題解決の手法を提案できること。

準備学習

評価方法その他

実測・調査報告書(80%)，発表(20%)を総合的に評価する。

週　テーマ・授業目標等

1 ガイダンス
2 環境形成の問題点　(1)熱環境
3　　(2)空気環境
4　　(3)光環境
5　　(4)音環境
6 人間－環境系の調査手法　(1)調査手法
7　　(2)解析手法
8 数値シミュレーションの手法(1)
9 数値シミュレーションの手法(2)
10 実測・調査　(1)計画の策定
11　　(2)実測・調査の実施
12　　(3)実測・調査結果の分析
13　　(4)実測・調査結果の検討
14　　(5)解決策の検討
15 調査結果の発表

使用教科書名

建築環境学1 木村建一編著 丸善 1992
建築環境学2 木村建一編著 丸善 1993
環境心理調査手法入門 日本建築学会編 技報堂出版 2000

NO. 4051308　　建築構法特論

白井　篤

授業科目概要・教育目的（履修条件）

近年，建築物の耐久性向上技術の確立が急務とされていることから，特に，鉄筋コンクリート構造物の耐久性改善法，補修及び補強用材料の性能評価と選択手法，補修及び補強工法，維持・管理手法などを講述する。

学習目標・到達目標

鉄筋コンクリート構造物の耐久性と補修・補強工法，維持・管理手法，コンクリート診断技術などを学ぶことで、建築物の構法（しくみ）を理解する。

準備学習

ガイダンス（第1回目の授業）で配布した授業予定表に記載したキーワードについて事前に勉強した上で、授業に臨むこと。

評価方法その他

レポート（100%）にて評価する。

週　テーマ・授業目標等

1　建築物の耐久性と建築材料（1）
2　建築物の耐久性と建築材料（2）
3　鉄筋コンクリート造建築物の耐久性（1）
4　鉄筋コンクリート造建築物の耐久性（2）
5　鉄筋コンクリート構造物の劣化要因と劣化事例（1）
6　鉄筋コンクリート構造物の劣化要因と劣化事例（2）
7　鉄筋コンクリート構造物用補修材料及び補強材料（1）
8　鉄筋コンクリート構造物用補修材料及び補強材料（2）
9　補修及び補強材料の選択手法（1）
10補修及び補強材料の選択手法（2）
11補修及び補強工法（1）
12補修及び補強工法（2）
13補修及び補強後の鉄筋コンクリート構造物の維持・管理手法（1）
14補修及び補強後の鉄筋コンクリート構造物の維持・管理手法（2）
15レポート作成、まとめ

使用教科書名

適宜、資料を印刷、配布する。

NO. 4051309　　住環境設計特論

原口　秀昭

授業科目概要・教育目的（履修条件）

演習に近い方法で、図面を書くか読む方法で、3人の建築家による作品の空間構成を分析し、理解し、応用できるまでにする。

学習目標・到達目標

20世紀における、建築家による住宅作品の空間構成を学ぶ。ライト、コルビュジェ、ミースの20世紀の巨匠や日本の建築家達は、独立住宅において自らの理念を開花させていった。演習では、彼らの代表的住宅作品を立体的な図を起こす、拙著「20世紀の住宅」を使うなどして空間構成を分析する。最終的に、3人の巨匠の空間構成を設計に生かせるようにする。

準備学習

評価方法その他

3人の建築家による3作品を分析した内容、レポート等によって評価する。

週　テーマ・授業目標等

第1週・・・ライト、コルビュジエ、ミースについての概観
第2週・・・ライトの作品についての分析　1
第3週・・・ライトの作品についての分析　2
第4週・・・ライトの作品についての分析　3
第5週・・・ライトの作品についての分析　4
第6週・・・コルビュジエの作品についての分析　1
第7週・・・コルビュジエの作品についての分析　2
第8週・・・コルビュジエの作品についての分析　3
第9週・・・コルビュジエの作品についての分析　4
第10週・・ミースの作品についての分析　1
第11週・・ミースの作品についての分析　2
第12週・・ミースの作品についての分析　3
第13週・・ミースの作品についての分析　4
第14週・・3人の作品についての比較分析　1
第15週・・3人の作品についての比較分析　2

使用教科書名

原口秀昭著「20世紀の住宅　空間構成の比較分析」

NO. 4051310　　デザイン特論

望月　史郎

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生活用具・生活空間のデザインに関する歴史的な課題または今日的課題をテーマとして設定し、文献・資料類の輪読を行いながら、デザインの発想を抽出・分類し、その概念化について考察する。

学習目標・到達目標

準備学習

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. テーマ設定，文献・資料調査(1)
3. 文献・資料調査(2)，(必要に応じて)資料複写
4. 文献・資料調査(3)，(必要に応じて)資料複写，輪読分担
5. 概要作成方法
6. 輪読と討議(1)
7. 輪読と討議(2)
8. 輪読と討議(3)
9. 中間レポート
10. 輪読と討議(4)
11. 輪読と討議(5)
12. 輪読と討議(6)
13. 輪読と討議(7)
14. まとめへ向けての討議とプレゼンテーション資料の作成
15. まとめ，レポート作成

評価方法その他

出席30%、参加の積極性20%、概要の作成法20%、レポート30%

使用教科書名

NO. 4051311　　情報メディアデザイン特論

呉　起東

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本特論は，複雑な情報，構造化されてない情報からデザイン手法を通して可視化し構成することで情報としての意味を持たせるための知識を獲得することを目的とする．そのために，情報の処理，加工に関わる概念，原理を理解し，情報の収集・分析した後にデータ同士の相関関係を発見して思考の拡張とデータが持っている意味の発見ができるように最新情報や論文から論じる．また，分析方法をデザインに活かすための学術的アプローチについても論じる．

学習目標・到達目標

情報の処理，加工に関わる概念，原理を理解し，情報の収集・分析した後にデータ同士の相関関係を発見して思考の拡張とデータが持っている意味を理解する．

準備学習

週　テーマ・授業目標等

1)ガイダンスと情報デザインの定義
2)情報の可視化の手法について：Cladogram, Dendrogram, Graph Drawing, Heat Mapなど図式的形態　の中で抽象的に表現された，属性または，変数を持つ単位を含んだ情報について論じる．
3)情報デザインの方法1の概説：データ収集，分析，検証，シナリオ作成について論じる．
4)情報デザインの方法2の概説：問題定義，階層構造作成，視覚的効果について論じる．
5)インタラクションデザインの概説：定義，手法について論じる．
6)インタラクティブメディアの概説：電子出版の現状，UX (User Experience)について論じる．
7)インタラクティブプログラミングについて：html5，CSS3について概説する．
8)情報伝達デザインのプロセスについて：調査と分析，コンセプトと機能デザイン，評価について論じる．
9)記号とグラフィックスの概説：明度，色相，質感，形態，位置，方向，大きさなどについて論じる．
10)タイポグラフィの定義と属性の概説：可読性，判読性，書体，重さ，大きさ，スタイル，色彩，字間，行間，空間，位置，動きと方向，時間などについて論じる．
11)最新の情報デザイン工学について1：情報デザイン関連の研究論文を概説する．
12)最新の情報デザイン工学について2：情報可視化関連の論文を概説する．
13)最新の情報デザイン工学について3：情報分析方法関連の論文を概説する．
14)最新の情報デザイン工学について4：インタラクティブメディア，UX関連の論文を概説する．
15)総合解説：これまでの学習内容を振り返りながらまとめるとともに情報デザイン工学の観点から新たな表現方法やプロセスについて総合的に論じる

評価方法その他

必要に応じて講義関連資料や関連論文を配布する．概説後，講義中の小テスト，レポート，最終試験を総合して評価する．

使用教科書名

必要に応じて資料を配布する．

NO. 405131201	生活デザイン特論演習 1	生活デザイン学科 教員

授業科目概要、履修条件

衣食住もの分野のうちの一つの分野について、専門的な調査、研究、製作、計画設計を教員の指導のもとに行なう。共同研究、共同制作、共同計画設計の場合は、各自の分担を明確にする。

週 テーマ・授業目標等

第1週・・・指導教員による個別指導(1)
第2週・・・指導教員による個別指導(2)
第3週・・・指導教員による個別指導(3)
第4週・・・指導教員による個別指導(4)
第5週・・・指導教員による個別指導(5)
第6週・・・指導教員による個別指導(6)
第7週・・・指導教員による個別指導(7)
第8週・・・指導教員による個別指導(8)
第9週・・・指導教員による個別指導(9)
第10週・・・指導教員による個別指導(10)
第11週・・・指導教員による個別指導(11)
第12週・・・指導教員による個別指導(12)
第13週・・・指導教員による個別指導(13)
第14週・・・指導教員による個別指導(14)
第15週・・・指導教員による個別指導(15)

使用教科書名

評価方法その他

調査、研究、製作、計画設計の結果としてのレポート、制作物、図面等により評価する。

参考図書名

NO. 405131301	生活デザイン特論演習 2	生活デザイン学科 教員

授業科目概要、履修条件

衣食住もの分野のうちの一つの分野について、専門的な調査、研究、製作、計画設計を教員の指導のもとに行なう。共同研究、共同制作、共同計画設計の場合は、各自の分担を明確にする。

週 テーマ・授業目標等

第1週・・・指導教員による個別指導(1)
第2週・・・指導教員による個別指導(2)
第3週・・・指導教員による個別指導(3)
第4週・・・指導教員による個別指導(4)
第5週・・・指導教員による個別指導(5)
第6週・・・指導教員による個別指導(6)
第7週・・・指導教員による個別指導(7)
第8週・・・指導教員による個別指導(8)
第9週・・・指導教員による個別指導(9)
第10週・・・指導教員による個別指導(10)
第11週・・・指導教員による個別指導(11)
第12週・・・指導教員による個別指導(12)
第13週・・・指導教員による個別指導(13)
第14週・・・指導教員による個別指導(14)
第15週・・・指導教員による個別指導(15)

使用教科書名

評価方法その他

調査、研究、製作、計画設計の結果としてのレポート、制作物、図面等により評価する。

参考図書名

NO. 405131401	生活デザイン特論演習 3	生活デザイン学科 教員

授業科目概要、履修条件

衣食住もの分野のうちの一つの分野について、専門的な調査、研究、製作、計画設計を教員の指導のもとに行なう。共同研究、共同制作、共同計画設計の場合は、各自の分担を明確にする。

週 テーマ・授業目標等

第1週・・・指導教員による個別指導(1)
第2週・・・指導教員による個別指導(2)
第3週・・・指導教員による個別指導(3)
第4週・・・指導教員による個別指導(4)
第5週・・・指導教員による個別指導(5)
第6週・・・指導教員による個別指導(6)
第7週・・・指導教員による個別指導(7)
第8週・・・指導教員による個別指導(8)
第9週・・・指導教員による個別指導(9)
第10週・・・指導教員による個別指導(10)
第11週・・・指導教員による個別指導(11)
第12週・・・指導教員による個別指導(12)
第13週・・・指導教員による個別指導(13)
第14週・・・指導教員による個別指導(14)
第15週・・・指導教員による個別指導(15)

使用教科書名

評価方法その他

調査、研究、製作、計画設計の結果としてのレポート、制作物、図面等により評価する。

参考図書名

NO. 405131501	生活デザイン特論演習 4	生活デザイン学科 教員

授業科目概要、履修条件

衣食住もの分野のうちの一つの分野について、専門的な調査、研究、製作、計画設計を教員の指導のもとに行なう。共同研究、共同制作、共同計画設計の場合は、各自の分担を明確にする。

週 テーマ・授業目標等

第1週・・・指導教員による個別指導(1)
第2週・・・指導教員による個別指導(2)
第3週・・・指導教員による個別指導(3)
第4週・・・指導教員による個別指導(4)
第5週・・・指導教員による個別指導(5)
第6週・・・指導教員による個別指導(6)
第7週・・・指導教員による個別指導(7)
第8週・・・指導教員による個別指導(8)
第9週・・・指導教員による個別指導(9)
第10週・・・指導教員による個別指導(10)
第11週・・・指導教員による個別指導(11)
第12週・・・指導教員による個別指導(12)
第13週・・・指導教員による個別指導(13)
第14週・・・指導教員による個別指導(14)
第15週・・・指導教員による個別指導(15)

使用教科書名

評価方法その他

調査、研究、製作、計画設計の結果としてのレポート、制作物、図面等により評価する。

参考図書名

NO. 4051401　　発達心理学特論A

根本　橘夫

授業科目概要・教育目的（履修条件）

各ライフステージにおける人間形成を心理的発達という側面から取り上げ、発達心理学や教育心理学の観点から考察する。とりわけ、乳児期から成人までの自我の発達に焦点を合わせ、健全な自我発達の条件や発達を妨害する要因を明らかにする。受講生は前もって指定された文献を読んでおくこと、適宜課される課題に解答すること、および討論に参加することなど、積極的な関与が求められる。

学習目標・到達目標

生涯発達という観点から健全な心理的発達とはいかなることであるのかを理解する。

準備学習

各回の授業において次回までに読んでおくべき資料を指示するので、必ず読んで出席すること。

評価方法その他

平常点(60%)、レポート(40%)により評価する。
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に評価する。)

週　テーマ・授業目標等

1　本授業の目的と内容の概観
2　生涯発達の概念
3　乳幼児期の発達
4　乳幼児期の発達
5　乳幼児期の発達
6　児童期の発達と教育
7　児童期の発達と教育
8　児童期の発達と教育
9　思春期・青年期の発達と教育
10　思春期・青年期の発達と教育
11　思春期・青年期の発達と教育
12　思春期・青年期の発達と教育
13　成人期の発達
14　成人期の発達
15　まとめ

使用教科書名

講義のなかで適宜紹介する。

NO. 4051402　　発達心理学特論B

根本　橘夫

授業科目概要・教育目的（履修条件）

乳幼児期から青年期までの人間形成を、発達心理学や教育心理学の観点から考察する。とりわけ、人間の多様な心理的機能が相互規定的に発達していくことを実証的、理論的研究により明らかにし、人間形成を促進する保育や教育のあり方を探究する。受講生は前もって指定された文献を読んでおくこと、適宜課される課題に解答すること、および討論に参加することなど、積極的な関与が求められる。

学習目標・到達目標

人間形成は多様な機能の発達が基礎にあるが、そうした諸機能が相互規定的に作用しながら発達することを理解し、発達促進のために求められる保育や教育の在り方への基本的な視点を獲得する。

準備学習

毎時次回までに読んでおくべき資料を指示するので、前もって読んで授業に出席すること。

評価方法その他

平常点(60%)、レポート(40%)
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。レポートは授業のなかで適宜課される。)

週　テーマ・授業目標等

1　発達をとらえる基本的概念
2　認知的領域の発達
3　認知的領域の発達
4　情意的領域の発達
5　情意的領域の発達
6　社会的能力の発達
7　社会的能力の発達
8　発達の総合的理解
9　発達の総合的理解
10　発達の総合的理解
11　発達の総合的理解
12　発達障害と指導
13　発達障害と指導
14　発達障害と指導
15　まとめ

使用教科書名

授業開始時に提示する。

NO. 4051403　　臨床心理学特論A

吉川　晴美

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間の発達と支援について臨床心理学的視点から考究する。
文献購読をし、発表、討議、ロールプレイ等により課題を深める
発達支援、心理臨床のフイールドを知り、果たすべき専門的役割について学ぶ。

学習目標・到達目標

臨床（発達）心理学とは何かを学び、理論と方法と実践の相即的理解を深める。発達支援、心理臨床の専門的役割について学ぶ。現場での役割の果たし方、かかわり方について、ロールプレイ等を通して、認識と行為を結び付け、
実践的理解がふかまるようにする。

準備学習

初めてこの分野を履修する学生の場合は、学部開講の「心理学」「発達臨床心理学」等の関連科目の授業を履修することが勧められるので、あらかじめ担当教員に相談のこと

評価方法その他

レポート、出席状況、授業態度

週　テーマ・授業目標等

1. 臨床発達心理学の基礎理論
2. 心理臨床と発達支援
3. 現代社会における発達支援
4. フイールド（家庭、園、学校）での子どもの発達・心理
5. 発達の障害
6. 現代社会における諸問題と精神保健・基礎研究法
7. 対象理解のための査定、検査、評価、診断の方法
8. 対象理解のプロセス：問題へのアプローチ
9. ダイナミックアセスメントと関わりを通しての評価
10. 臨床発達心理学における支援方法・展開過程
11. 心理劇Ⅰ（ロールプレイ）
12. 心理劇Ⅱ（ロールプレイ）
13. 心理劇Ⅲ（ロールプレイ）
14. フイールドにおける発達支援、心理臨床Ⅰ
15. フイールドにおける発達支援、心理臨床Ⅱ
16. まとめ

使用教科書名

「臨床発達心理学概論」ミネルヴァ書房
「人生を舞台に」関係学研究所

NO. 4051404　　臨床心理学特論B

野並　美雪

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもの発達と心理における様々な課題や事例について、その理解や問題へのアプローチ、フイールドにおける臨床的な支援、援助の方法を探究する。
（発達）心理臨床の専門性と仕事（役割）についての理解と現場における理論・方法・実践の相即的発展が促されるよう研鑽する。

学習目標・到達目標

臨床発達心理学の理論と方法を習得し、専門的な役割を取って発達支援、心理臨床を実践できるようにする。

準備学習

この授業は、みなさんの疑問や気づきをもとに進めていきます。発達支援、心理臨床の仕事について事前に考え、知りたいこと・わからないことをできるだけ多く見つけて、講義に臨んでください。また、どんなことが発達・心理支援になるのだろうか、支援者として大切なことは何だろうか、ということを考えてみてください。

評価方法その他

レポート（50%）、平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況、授業中に行うディスカッション等への参加内容で判断します）

週　テーマ・授業目標等

1. 現代社会における諸問題と臨床発達心理学
2. 臨床発達心理学における支援技術
3. 心理臨床と支援活動の展開
4. 発達障害の支援と方法
5. コンサルテーションによる発達支援
6. フィールドにおける発達支援・心理臨床（家庭）
7. フィールドにおける発達支援・心理臨床（園・学校）
8. フィールドにおける発達支援・心理臨床（施設）
9. 養育者の理解とカウンセリング
10. 対象者・家族の理解とコミュニケーション技術
11. 臨床（発達）心理学の活用と活動の場
（乳幼児期・児童・青年期・成人・老人期）
12. 事例研究1－子どもと家族を対象とする臨床実践の事例－
13. 事例研究Ⅱ－他機関との連携の事例－
14. チームアプローチの展開
15. 臨床における職業倫理・まとめ

使用教科書名

シリーズ臨床発達心理学・理論と実践①
臨床発達心理学の基礎　ミネルヴァ書房

NO. 4051405　人間発達特論ＩＡ

小野　眞理子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

子どもの発達に関る専門職は、臨床の場で多種多様な言語発達上の問題に出会う。それらの問題に対処するための、理論的基盤や評価法、支援方法などについて教科書を手がかりとして、実践事例も含め具体的に述べていく。

学習目標・到達目標

臨床発達心理士に必要な資質を学習する。特に言語発達をめぐる問題を査定し、具体的な支援ができるようにする。臨床発達心理士は「子どもから大人まで、生涯にわたり支援する」ため、言語に関しても生涯にわたる言語発達と支援について学ぶ。また「家族・地域への広がりをもった支援をする」ので、発達援助に関する連携を考える。特に、言葉の発達に課題があるとされる子ども、障害、社会適応などの問題に対応できるようにする。

準備学習

評価方法その他

出席50%、レポート50%

週　テーマ・授業目標等

1. 言語発達の基礎（言語発達と言語発達支援）
2. 言語発達の生物学的・神経学的基礎
3. 言語発達の社会的基礎
4. 言語発達の認知的基礎
5. 言語発達の概観－1
6. 言語発達の概観－2
7. 言語発達の概観－3
8. 言語発達の概観－4
9. 言語発達の概観－5
10. 言語発達の教育的側面－1
11. 言語発達の教育的側面－2
12. 言語発達の教育的側面－3
13. 言語発達の社会的・文化的的側面－1
14. 言語発達の社会的・文化的的側面-2
15. まとめ

使用教科書名

シリーズ臨床発達心理学〈4〉
岩立　志津夫・小椋　たみ子【編著】
言語発達とその支援
ミネルヴァ書房（2002-08-30出版）

NO. 4051406　人間発達特論ＩＢ

小野　眞理子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

言葉について課題を持ち、相談機関を訪問する人は少なくない。言葉に関する主訴を的確に評価し、対処できるようにする。①言語の状態を評価し、言語発達関係状況を分析し、対処方針が設定できるようにする。そして、対象者を取り巻く関係状況全体に関与していくような発達支援システムを構成し、語発達支援活動の理論と技法を学ぶ。③発達関係状況における「言葉に関する相談」の意味を評価し、対処できるようにする。本講義は、発達支援を専門とする臨床発達心理士が履修するべき5指定科目の中の「言語発達とその支援」に該当するので、教科書に順守して行う。

学習目標・到達目標

子どもから大人まで、生涯にわたる言語発達支援を行う専門職」としての基礎を学ぶことを目標とする。人間社会において人間が生涯にわたり使用する言語を生涯かけて育てていくもので人間の言語発達の様相を学び、それと同時に生起しがちな言語発達にかかわる課題・問題を知る。そして、課題解決に向けた支援の原理や支援技法について演習する。さらに、家族・地域への広がりをもった支援を必要とすることが多いので、発達援助に関する専門職相互の連携を考える。

準備学習

「ことばを育てる」は「関係を育てる」ことであり、
「相手のことばを育てること」は「自分のことばを育てること」です。
自分を育てる意欲を持って、主体的に学習しましょう。

評価方法その他

出席50%
レポート50%

週　テーマ・授業目標等

1. ことばの発達と障害特性
   - -1 言葉以前のことばが育つとき
   - -2 話し始めの時期
   - -3 語彙・構文が育つ時期
   - -4 会話期
   - -5 リテラシーの発達
2. 保育・教育場面におけることばの障害へのかかわり
3. 少年期・青年期のコミュニケーション支援
4. 家庭における「ことばの障害」へのかかわり
5. ことばの支援過程
   - -1 言語発達評価
   - -2 言語発達関係状況評価
   - -3 補助・代替コミュニケーション(AAC)
   - -4 言語障害のメカニズム
   - -5 回復の過程

使用教科書名

シリーズ 子供の発達支援のエッセンス
第1巻 秦野悦子（編著）2010
生きたことばの力とコミュニケーションの回復 金子書房

NO. 4051407　人間発達特論ⅡA

加地　雄一

授業科目概要・教育目的（履修条件）

人間の発達は、知的・技能的な発達だけでなく、他者との関係で生じる感覚的・情動的な側面から捉えることが必要である。この授業では社会性や情動の発達の臨床的意味および、発達のとらえ方、アセスメント方法の基礎と、関係性を視点においた発達支援のあり方を学ぶ。

学習目標・到達目標

乳児期から思春期までの子どもの発達が阻害される要因を理解すること、発達を直線的に捉えるのではなく、環境や家族、支援者の対応によって力動的に変化することを学ぶ。この科目は臨床発達心理士資格科目である。

準備学習

発表や討論，ワークなどを中心にしますので，主体的な参加を期待します。

評価方法その他

出席、レポート、討議によって総合評価する

週　テーマ・授業目標等

1.社会・情動発達の基本的理解

2.いまの社会に起こる発達の危機

3.子どもたちの危機と情動の発達

4.情動の発達の個人差

5.情動のアセスメントについて

6.乳幼児期にみられる情動と関係性

7.遊びのとらえ方(1)

8.遊びのとらえ方(2)

9.就学前の子どもにみられる情動と関係性

10.思春期にみられる情動と関係性

11.子どもへの支援の方法

12.気質と親子関係

13.家族への支援の方法

14.ケース報告

15.まとめ

使用教科書名

特に指定しませんが，下記を参考にして下さい。
須田治・別府哲(編著)(2002)『シリーズ　臨床発達心理学　第三巻　社会・情動発達とその支援』(ミネルヴァ書房)
辻井正次(監修)(2014)『発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン』金子書房

NO. 4051408　人間発達特論ⅡB

加地　雄一

授業科目概要・教育目的（履修条件）

臨前期に引き続き、社会性や情動の発達の臨床的意味および、情動アセスメント方法を学ぶとともに、発達障害のある子どもたちの情動や関係のもち方を理解し、介入や支援方法を探る。

学習目標・到達目標

前期に引き続き、乳児期から思春期までの子どもの発達が阻害される要因を理解し、環境や家族、支援者の対応によって力動的に変化することを学ぶ。保育現場や教育現場で子どもが起こす行動を問題行動として捉えるのではなく、その子どもの発達過程として理解しつつ、集団に適した行動に変容させるための考え方を学ぶことを目標とする。この科目は臨床発達心理士資格科目である。

準備学習

評価方法その他

出席、レポート、討議で総合的に評価する

週　テーマ・授業目標等

1.乳幼児期にみられる情動と関係性の障害

2.コミュニケーションの発達と障害

3.コミュニケーションの発達と障害：介入と支援について

4.あそびの発達と障害

5.あそびの支援方法

6.関係の障害、情動のトラブルへの介入(1)

7.関係の障害、情動のトラブルへの介入(2)

8.具体的支援：発達障害のある子どもへの支援(1)

9.具体的支援：発達障害のある子どもへの支援(2)

10.具体的支援：発達障害児をもつ家族への支援(1)

11.具体的支援：思春期における危機への支援

12.環境のアセスメント

13.模擬データーによるアセスメント

14.ケース報告

15.まとめ

使用教科書名

特に指定しませんが，下記を参考にして下さい。
須田治・別府哲(編著)(2002)『シリーズ　臨床発達心理学　第三巻　社会・情動発達とその支援』(ミネルヴァ書房)
辻井正次(監修)(2014)『発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン』金子書房

NO. 4051409　人間発達特論ⅢA

吉川　晴美

授業科目概要・教育目的（履修条件）

育児・保育現場で、ひとりひとりの子どもが自然や人や自分自身とかかわりながら生き生きと生活し発達していくことへの支援を、新たな人間探求の領域である臨床発達心理学に基づいて具体的にまなぶ。

学習目標・到達目標

育児・保育現場での子どもの発達の課題と様相を理解する。臨床発達心理学の立場からの支援へのニーズを知り、アセスメント、
支援の方法について理解をすすめる。

準備学習

育児・保育現場での実践や事例との対応で理解が進められることが望ましい。

評価方法その他

出席状況、リポーターとしての発表と討議内容、現場見学と報告、事例報告と事例検討

週　テーマ・授業目標等

「育児・保育現場での発達とその支援に関する科目」

1. 現場からみた発達
1-1　現場から発達をみなおす臨床的意味
1-2 現場のなかでの発達とその今日的問題
2. 現場での支援
2－1現場での支援の考え方
2－2　支援の基本的姿勢
2－3　支援者の基本的姿勢
3. 現場での支援の理論的基礎
3－1　支援ニーズの把握に関する理論
3－2　支援技法に関する理論的背景
4. 現場での支援のためのアセスメント
4－1　現場でのアセスメントの考え方
4－2　個別の支援ニーズに関するアセスメント
5. 現場での支援のための方法の基礎
5－1　支援の具体的流れ
5－2　コンサルテーションを通して
5－3　カンファレンスを通して
5－4　カウンセリングを通して
5－4　アクションリサーチを通して
6. まとめ

使用教科書名

シリーズ臨床発達心理学　ミネルヴァ書房
(5) 育児・保育現場での発達とその支援

NO. 4051410　人間発達特論ⅢB

吉川　晴美

授業科目概要・教育目的（履修条件）

履修条件：人間発達特論ⅢAを履修していること。
就学前の保育園、幼稚園、家庭での子どもと保護者、子ども同士の関係性における子どもの発達を取り上げ、現場から見る子どもの発達的危機への支援に焦点をあてる。

学習目標・到達目標

就学前の保育園、幼稚園、家庭での子どもと保護者、子ども同士の関係性における子どもの発達の理解を勧め、現場から見る子どもの発達的危機への支援の方法を学ぶ。

準備学習

臨床発達心理学における育児・保育現場での発達支援の専門的理解が進むよう
研鑽を積むことが期待される。

評価方法その他

出席状況、リポーターとしての発表と討議内容、現場見学とレポート報告、事例報告と事例検討

週　テーマ・授業目標等

「育児・保育現場での発達とその支援に関する科目」

それぞれの現場での支援の実際

1. 育児現場での支援
1－1　育児現場での支援の考え方
1－2　保護者への支援
1－3　子どもへの支援
1－4　地域・社会への働きかけ
1－5　育児現場での支援の実際
2　保育現場での支援
2－1　保育現場での支援の考え方
2－2　保育者への支援
2－3　子どもへの支援
2－4　保護者どもへの支援
2－5　地域・社会への働きかけ
2－6　保育現場での支援の実際
2－7　保育をめぐる問題と支援事例
3　まとめ

使用教科書名

『シリーズ臨床発達心理学』ミネルヴァ書房
(5) 育児・保育現場での発達とその支援

NO. 4051411　人間発達特論ⅣA

村松　健司

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講は「認知発達とその支援」を副題に、子どもの定型発達を参照しながら、広汎性発達障害など認知障害の査定および支援の方略について解説する。

学習目標・到達目標

子どもの認知発達障害を査定する技法（心理テストや行動観察）を身につけ、それをもとに具体的支援をマネジメントする技術を学ぶ。

準備学習

虐待を受けた子どもや発達障碍児への心理支援について、総合的に考えたいと思います。

評価方法その他

出席と授業の討論などを総合的に評価する。

授業内容は、適宜変更する場合がある

週　テーマ・授業目標等

1.認知発達の臨床的意味①　自己意識の発達

2.認知能力とは何か①　前操作期のコミュニケーション

3.認知の発生①　ピアジェの発達的認識論

4.認知の発生②　感覚－運動期と前操作期

5.認知発達の機構①　発達課題と生涯発達

6.認知発達の機構②　記憶の発達

7.認知の個人差①　適正処遇交互作用を中心に

8.認知発達の障害の査定①　テスト・バッテリーについて

9.乳児期の発達①　愛着理論と間主観性

10.学齢期の発達①　自己概念の発達

11.知能の発達と障害①　被虐待児の学業不振

12.社会的認知の障害と発達①　施設病と子どもの育ち

13.学力の基礎の発達と学習障害①　TEACCHの可能性

14.認知発達支援の方法①　治療モデルについて

15.認知障害の支援の技法①　ティームアプローチから

使用教科書名

『認知発達とその支援』田島信元編著　ミネルヴァ書房
その他、適宜資料を配付する

NO. 4051412　人間発達特論ⅣB

村松　健司

授業科目概要・教育目的（履修条件）

後期集中授業では、主に虐待を受けた子どもへの認知発達支援について学ぶ。とくに、近年問題になっている被虐待児の学力の遅れについて取り上げる。

学習目標・到達目標

WISCの実施と解釈の技法を身につける。さらに、虐待を受けた子どもや発達障碍児のプロトコルから、具体的支援のための指針を読みとる技術を学ぶ。

準備学習

半期ですが、意義のある討論の機会にできれば、と思います。子どもの発達支援について、日々感じていることなどがあれば、遠慮なく発言してください。

評価方法その他

授業への参加と授業における発表を総合して評価する。

授業内容は、適宜変更する場合がある

週　テーマ・授業目標等

1.被虐待児の発達的課題

2.知能の発達およびその障害と児童虐待

3.児童虐待と学業不振①　WISCからみた知的能力の特徴

4.児童虐待と学業不振②　指導プロトコルの分析

5.児童虐待と学業不振③　学習指導場面での留意点

6.児童虐待と学業不振④　学習指導の方法

7.児童虐待と学業不振⑤　生活支援と「学習」態度
学習のプレ・トレーニングについて

8.被虐待児の成長を支えるために①　他職種との協力

9.被虐待児の成長を支えるために②　発達促進的心理療法
（アセスメントを中心に）

10.被虐待児の成長を支えるために③　発達促進的心理療法
（治療的方法）

11.被虐待児の成長を支えるために④　グループワークの理論

12.被虐待児の成長を支えるために⑤　グループワークの実践

13.親支援を巡る問題①　家族の抱える困難

14.親支援を巡る問題②　家族再統合について

15.まとめ　児童虐待と認知発達支援

使用教科書名

『認知発達とその支援』田島信元編著　ミネルヴァ書房
その他、適宜資料を配付します

NO. 4051413　　児童学特論Ａ（教育原理）

長谷　徹

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講座は、教育学への入門であった学部における講座「教育原理」を発展、深化させるものである。教育の目的や内容、教育課程についての基本的な考え方、教育法規のとらえ方、学習指導方法の歴史的な変遷、教育についての歴史的な考察等の基本の上に立って、教育の基底にある理論等を学ぶ講座である。また本講座では、受講生の主体的な課題意識、教育実習等における問題意識等を基本として授業を進めていく。

週　テーマ・授業目標等

学部の「教育原理」を基底に置きながら、受講生の問題意識を

学習目標・到達目標

教育についての基本を学んだ上に、教育について、更に深めたい内容等について、自主的にテーマをかかげ理論的、実践的にまとめていくことができる。特に、課題の発見について時間をかけて取り組むことが期待される。

大切にして授業を進めていく。

準備学習

学部時代の教育原理の復習を適切に行っておく必要がある。授業に入る前に課題が決められれば展開が早い。

具体的、実践的な研究を期待している。

評価方法その他

レポート等　70%　　受講態度　30%

使用教科書名

特にないが、必要に応じて相談する。

NO. 4051414　　児童学特論Ｂ（道徳教育）

長谷　徹

授業科目概要・教育目的（履修条件）

本講座では、学校教育において一つの領域を有する道徳教育について、道徳教育の現状はどうなっているか、道徳教育の課題は何か等について学ぶ事を目的とする。

週　テーマ・授業目標等

道徳教育の基本的な課題を学習するとともに、学校における

道徳教育の現状、課題とうについて、学校における具体的な

学習目標・到達目標

「生きる力」の一つの分野“豊かな人間性の育成”に関わって。その中心を担っていく道徳教育について、具体的な実践に基づきながら、道徳教育の望ましい在り方について理解を深めていく。特に、道徳の時間の指導と全教育活動における道徳教育との関連について理解と実践について具体的に理解し、論を築くことができる。

指導を資料としながら学ぶ。また、新たに「特別の教科　道徳」

準備学習

となったことについての経緯と現状、さらには課題等について

受講生の教育実習等の体験や理論を通して学ぶ。

評価方法その他

レポート等　70%　　受講態度　30%

使用教科書名

小学校学習指導要領道徳編　解説書

NO. 4051415　　児童学特論C（保育の原理と方法）

新開　よしみ

授業科目概要・教育目的（履修条件）

保育学分野の文献を講読し，さまざまな保育の原理や方法，および保育の現代的課題を理解するとともに，最新の研究成果について検討する。受講者の発表を中心とした授業を行う。

週　テーマ・授業目標等

1.オリエンテーション
2.わが国の保育観と保育の原理
3.わが国の保育観と保育の方法
4.子ども理解と保育(1)
5.子ども理解と保育(2)
6.子ども理解と保育(3)
7.保育の環境について(1)
8.保育の環境について(2)
9.保育の環境について(3)
10.保育における遊びの意味(1)
11.保育における遊びの意味(2)
12.保育における遊びの意味(3)
13.保育をめぐる現代的課題(1)
14.保育をめぐる現代的課題(2)
15.保育をめぐる現代的課題(3)

学習目標・到達目標

●国内外の保育をめぐる課題や動向を理解する
●保育実践を支えるさまざまな保育思想や原理・方法について理解する
●保育者の専門性について考察する

準備学習

評価方法その他

課題点40%・最終レポート60%
（課題点には，発表等の平常の授業への取り組みが含まれます）

使用教科書名

参考文献を中心に，受講生の関心に合わせて数冊を購読用テキストとして指定する。

NO. 4051416　　児童学特論D（運動と健康）

金子　和正

授業科目概要・教育目的（履修条件）

授業前半は、今日の子どもを取り巻く運動環境について概観するとともに様々な課題について取り上げていきます。また、自身の子どもの頃、さらには親の子どもの頃の環境と比較しながら、具体的な問題点や課題を抽出し、その解決方法について考えて行く。後半の授業は海外の子どもたちとの比較も行っていくことにより、日本の子どもたちの生育環境の特質についても思考できるようにしていきます。運動環境と健康問題を考えるには、多くの様々な要因が複雑に絡み合っていることを念頭に、そのいくつかについて大人が今できることをクローズアップしていくことを試みます。

週　テーマ・授業目標等

1.子どもを取り巻く運動環境と健康環境
2.子どもにとって遊び、運動、スポーツとは何なのか
3.今日的な課題
4.子どもの健康を左右する要因
5.子どもの運動発達と健康
6.運動環境の改善と方法
7.運動と健康に関わる様々なキーワード
8.保育者、保護者と子どもの遊びとの関わり
9.運動嫌いをつくらないために
10.諸外国の子どもの運動環境、健康状態
11.諸外国が抱える子どもの運動環境、健康状態の課題
12.子どもは健康や運動の概念をどのように学んでいるのか(欧米を中心に)
13.健康や運動に関するデータの取り方
14.データの活用と評価
15.まとめとレポート(子どもの抱える健康、運動の今日的課題とその対応)
16.試験

学習目標・到達目標

今日の複雑な生活環境の中で子どもの運動と健康を考えることは、将来を担う子どもたちのことを考える上で避けて通れません。健康は食事と運動、休息を三本柱に成り立ちますが、加えて子どもには遊びという大切なキーワードがあり、遊びを中心に形成されていく子どもの運動と健康について、様々な視点から考えられる保育者、保護者に適切なアドバイスを与えられる保育者、子ども達に直接指導できる指導者になれることを具体的な学習目標におきます。

準備学習

評価方法その他

授業への出席と積極的態度を重視する。授業への出席を60%。毎授業終了時に実施する小テストを40%とする。

使用教科書名

NO. 4051417　　児童学特論E（数学教育）

新海　公昭

授業科目概要・教育目的（履修条件）

算数・数学授業をつくる上で必要な「教材研究と教材開発」に焦点をあてる。代数,幾何,解析領域のそれぞれについて,生徒が興味・関心を持つような教材開発を行うこと等を通して,数学教材に関する理解を深める。

週　テーマ・授業目標等

1.教材研究の視点
2.代数学の視点でみた算数・数学1
3.代数学の視点でみた算数・数学2
4.代数学の視点でみた算数・数学3
5.幾何学の視点でみた算数・数学1
6.幾何学の視点でみた算数・数学2
7.幾何学の視点でみた算数・数学3
8.解析学の視点でみた算数・数学1
9.解析学の視点でみた算数・数学2
10.解析学の視点でみた算数・数学3
11.幼小連携の視点にたった教材研究1
12.幼小連携の視点にたった材研研究2
13.小中連携の視点にたった教材研究1
14.小中連携の視点にたった教材研究2
15.全体のまとめ
16.定期試験

学習目標・到達目標

小学校の算数科を中心に,基本的内容を把握したうえで,いずれかの学年・単元に焦点を当てて,「代数,幾何,解析,算数的活動などをキーワードとした学習指導案をつくることができるようになること。

準備学習

子どもたちが楽しく夢中になり熱中する活動は、年齢に関係なく大人も楽しく分かることに満ちあふれています。一緒に学びましょう。

評価方法その他

授業への取り組み状況(40点)と数回のレポート(60点)で,総合的に評価する。

使用教科書名

文部科学省「小学校学習指導要領解説　算数編」

NO. 4051418　　児童学特論F（音楽教育）

山原　麻紀子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

週　テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方の確認、各自の関心テーマの確認
2. 音楽教育における研究の動向①
3. 音楽教育における研究の動向②
4. 歴史的研究について①
5. 歴史的研究について②
6. 量的研究について①
7. 量的研究について②
8. 質的研究について①
9. 質的研究について②
10 民族誌的研究について①.
11. 民族誌的研究について②
12. 海外の音楽教育研究について①
13. 海外の音楽教育研究について②
14. レポートの課題設定とまとめ方について
15. まとめ・レポート提出

学習目標・到達目標

(1)子どもと音楽の関わりや、音楽教育が果たす役割について理解を深める。(2)歴史・社会と音楽および音楽教育の関係について理解する。(3)幼児音楽教育、音楽科教育をはじめ、音楽教育研究の様々な方法について理解を深めるために、各研究方法の必読文献にあたるとともに、具体的な研究内容を学ぶ。(4)国内外の最新の音楽教育研究の動向について、英語論文を含め様々な情報媒体を通して学ぶ。

準備学習

各自、次週の課題に向けて資料や文献を読み込んだ上で授業に臨むこと。

評価方法その他

毎回の授業参加態度(発表、ディスカッション等)50%、まとめのレポート50%

使用教科書名

NO. 4051419　　児童学特論G（英語教育）

畝部　典子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

文献を読み進めながら第二言語習得理論と現代の英語教授法について、その概要を理解する。英語の文法、音声などに関する知識が必要となる。

学習目標・到達目標

英語を教えるために知っておかねばならない第二言語習得理論と現代の英語教授法について理解する。

準備学習

英語を教えるために必要な理論を学びます。積極的に取り組んでください。

評価方法その他

平常点50%、試験の結果50%で評価する。

週　テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 第二言語習得研究について(1)
3. 第二言語習得研究について(2)
4. 形態素、音韻、語彙、統語の習得(1)
5. 形態素、音韻、語彙、統語の習得(2)
6. 形態素、音韻、語彙、統語の習得(3)
7. 形態素、音韻、語彙、統語の習得(4)
8. 年齢と第二言語習得(1)
9. 年齢と第二言語習得(2)
10. 英語教授法(1)
11. 英語教授法(2)
12. 英語教授法(3)
13. 英語教授法(4)
14. 英語教授法(5)
15. 英語教授法(6)
16. 試験

使用教科書名

プリント配布

NO. 4051420　　児童学特論H（国際理解）

松野　妙子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

世界の子どもたちの状況を把握し、政治・経済・社会的な背景について理解したうえで、国際機関の取り組みのあり方を含めて今後の課題についても探ります。

学習目標・到達目標

世界の子供たちの状況を知り、その背景を理解すること(国際理解)によって、日本の子供たちの状況を相対化することが可能になります。多面的な視点の獲得が到達目標です。

準備学習

英文の論文や資料を使用する予定です。

評価方法その他

レポート60%、平常点(レジュメ、討論を含む)40%として総合的に評価します。

週　テーマ・授業目標等

1.問題の所在について
2.世界の子供たちの現状(教育、児童労働、医療福祉等)
——南アジア①インド、パキスタン、アフガニスタン
3.　——南アジア②フィリピン
4.　——アフリカ①北アフリカ
5.　——アフリカ②南部アフリカ
6.　——南米
7.　——先進国①ヨーロッパ
8.　——先進国②東アジア
9.子どもの人権について①
10.子どもの人権について②
11.国際機関の取り組み①
12.国際機関の取り組み②
13.NGOの取り組み
14.NGOの取り組み
15.問題点の整理

使用教科書名

プリントして配布します。

NO. 4051501　　福祉哲学特論

鈴木　元久

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「福祉の哲学」とは、何かを考えひも解いていく。福祉の領域・職場には、福祉の知識と技術があれば、それで十分であると考えられているが、福祉は、人と人の触れ合いである。そこには人と人との温かい心の交わりがなければならないであろう。福祉の哲学とは、思惟（知識）と行為（技術）に、愛（慈悲）が伴わなければなるまい（これは本学の建学の精神でもある）。この思惟と行為と愛の統合こそ、福祉であろう。愛によって支えられた知識と技術のトライアングルが福祉の世界をなすものではなかろうか。このような自覚を育むことが、この講義の目的と考える。

学習目標・到達目標

社会福祉は、人との関わりのにおいて成立するものである。それ故、そこには人間とは何か、私とは何者か、さらに何故に人に福祉サービスをするのか、これからの福祉とはいかにあるべきか、という問いかけを自らにする必要がある、と考えられる。そのような問いは、生涯をかけてなされるべきものである。そこで、今を生きている自分自身の問題を自覚し、問い続ける力を身につけることが必要であろう。それを本講義の学習目的と考える。

準備学習

学ばざれば牆に面す、と古くから言われるように、学びの心をいつも抱いていて欲しい。そこから自信も生まれ、前が見えてくるであろう。時には挫折もあり、自分の道が分からなくなることもあるであろう。その時、人に教えを乞うのもよい。人と共に生きることが福祉の心であろうか。

評価方法その他

レポート:70%　平常点:30%（平常点は講義への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断する。）

週　テーマ・授業目標等

第1週　オリエンテーション

第2週　出会いについての哲学的考察Ⅰ

第3週　同　Ⅱ

第4週　東西文化と福祉についての哲学的考察Ⅰ

第5週　同　Ⅱ

第6週　老いについての哲学的考察Ⅰ

第7週　同　Ⅱ

第8週　人と社会についての哲学的考察Ⅰ

第9週　同　Ⅱ

第10週　福祉サービスについての哲学的考察Ⅰ

第11週　同　Ⅱ

第12週　国家・社会・個人につていの哲学的考察Ⅰ

第13週　同　Ⅱ

第14週　新しい福祉のあり方についての哲学的考察Ⅰ

第15週　同　Ⅱ

使用教科書名

安部志郎・河幹夫『人と社会』中央法規出版

NO. 4051502　　社会保障特論

木本　明

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この国の社会保障性は5つの社会保険制度と生活保護制度を中心として構成されている。本来、社会保障制度は人の社会生活に不可欠な制度であるけれど、残念なことにこの国の社会保障制度は、人々が安心して生活するようなことを保障しきれていない。この国の社会保障制度のどこにどのような改善するべき問題、課題があるのか具体的に検討していきたい。

学習目標・到達目標

この国の社会保障の諸制度に関するきちんとした知識の上に立ち、社会保障制度を使いこなせるように整理して理解していく。

準備学習

評価方法その他

相互の意見交換と発表等。

週　テーマ・授業目標等

5つの社会保険制度と生活保護制度のそれぞれの内容を具体的に検討していく。

使用教科書名

特になし。

NO. 4051503　　高齢者福祉特論

西口　守

授業科目概要・教育目的（履修条件）

高齢者保健医療福祉の制度と実践を包括的に学ぶ
具体的には授業内容を参照
制度の実際　特に介護保険法については時間を割く

週　テーマ・授業目標等

①オリエンテーション
②高齢社会社会白書のいくつかのデータから学ぶ
③同上
④老人福祉方
⑤介護保険法
⑥介護保険法
⑦介護保険法
⑧医療確保法
⑨虐待問題
⑩住まい法
⑪介護人材の問題
⑫事例研究
⑬事例研究
⑭まとめ
⑮まとめ

学習目標・到達目標

高齢者社会の課題を保健医療福祉の側面から考えまた対応策を検討する。できるだけ江生のデータを示しながら、高齢化社会の問題や課題そして可能性をひとりひとりが考えるようになる。

準備学習

人間福祉学科卒業生また他学で社会福祉を学んだ学生は、改めて高齢者福祉論の教科書を熟読しておくこと。

評価方法その他

日常点　30%
レポート　50%
終了時口頭面接　20%

使用教科書名

なし

NO. 4051504　　介護福祉特論

鈴木　知佐子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

・日本の高齢社会の現状を理解し、日本が直面している社会保障の在り方や人々が求めている人生や生活のQOLについて学修する。
・高齢者の生きがいや社会貢献について意識調査を基に理解を深め、支援のあり方を探る。
・高齢者と慢性疾患、認知症の予防に関する基本的な理解と健康寿命との関連を学修する。
・介護を必要とする人の介護サービスについて理解し、介護サービスを支える専門職の役割について理解を深める

週　テーマ・授業目標等

1. 日本の高齢化の現状と今後の人口推移
2. 少子高齢化の実態と家族構造の変化
3. 少子高齢化と社会構造の変化
4. 高齢者の生きがい・就労に対する意識
5. 高齢者の理解（セカンドライフステージ）
6. 生産的老いと社会貢献
7. 高齢者と疾病（老年病）
8. 認知症とその予防
9. 介護を必要とする人の理解
10. 介護保健制度と介護サービスの実際（地域密着型サービス）
11. 介護保険制度と介護サービスの実際（施設サービス）
12. 介護現場を支える専門職とその理解
13.包括的サービスの提供とチームケアの在り方
14. 介護サービスとリスクマネジメント
15.まとめ
16.試験

学習目標・到達目標

日本の社会が直面している超高齢社会が人々の経済、就労、人生や生活のQOLにどのように影響するのか、概要をまとめることができる。
高齢者に発症しやすい慢性の疾患や認知症の予防と健康寿命との関連が理解できる。
介護保険制度について理解でき、介護サービスの在り方と地域包括ケアシステムが理解できる。

準備学習

文献の収集を課題とすることが多いため、検索について理解しておくこと。

評価方法その他

試験および中間のレポート(80%)、授業への参加状況、グループ学習への参加状況(20%)

使用教科書名

特に指定しない。
資料は適宜配布する

NO. 4051505　地域福祉特論

嶋田　芳男

授業科目概要・教育目的（履修条件）

地域福祉に関する先行研究について理解し、新たな研究課題の探究を行う

学習目標・到達目標

地域福祉に関わる先行研究についての理解を深める

準備学習

授業は、受け身の姿勢ではなく、積極的に参加する姿勢が求められる。
また、授業以外に事前準備及びプレゼンテーション準備等に相当な時間が必要になるため、留意した上で履修すること

評価方法その他

プレゼンテーション内容70%、レポート30%

週　テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 地域福祉の基本的枠組み(1)
3. 地域福祉の基本的枠組み(2)
4. 地域福祉の基本的枠組み(3)
5. 地域福祉の基本的枠組み(4)
6. 先行研究の検索(1)
7. 先行研究の検討(1)
8. 先行研究のプレゼン(1)
9. 先行研究の検索(2)
10. 先行研究の検討(2)
11. 先行研究のプレゼン(2)
12. 先行研究の検索(3)
13. 先行研究の検討(3)
14. 先行研究のプレゼン(3)
15. 新たな地域福祉研究課題の探究結果のプレゼン
16. 試験

使用教科書名

必要に応じて、プリントを配布する

NO. 4051506　福祉心理学特論

山田　順子

授業科目概要・教育目的（履修条件）

「支援を必要としている人々への福祉」にのみに焦点を当てた理解ではなく、障がいの有無や支援の必要の有無に関わらず、「全ての人々の、生活の質の向上や自己実現を目指す福祉」という観点から、知識と実践力を習得してもらうことを目指したい。そして、まず受講中に自らの課題を見つけ、この授業に臨む過程で修得した知識と実践力をその問題解決に活用してもらうこと、そしてこの授業終了後もその力を磨き続ける努力をしてもらえるようにすることが目的である。

学習目標・到達目標

「支援を必要としている人々への福祉」にのみに焦点を当てるのではなく、人々の障がいの有無や支援の必要の有無に関わらず、「全ての人々の、生活の質の向上や自己実現を目指す福祉」という観点から、心理学に関する知識と実践力を習得してほしい。そして、まず受講中に自らの課題を見つけ、この授業に臨む過程で修得した知識と実践力を、実際の問題解決に活用することを到達目標としたい。

準備学習

積極的に参加し、ともに作り上げていく授業だというつもりで、日頃から周囲や社会におけるご自分が解決すべき課題を見つけて下さることを願っています。

評価方法その他

毎回の授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週　テーマ・授業目標等

1.福祉心理学とは何か。歴史と目的。
2.welfareとwell-being
3.福祉心理学の研究法と実践
4.乳幼児をめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
5.児童をめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
6.青年をめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
7.高齢者をめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
8.障がい者をめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
9.家族をめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
10.教育をめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
11.地域をめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
12.就労をめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
13.医療をめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
14.犯罪被害者と加害者およびその家族への福祉心理学からのアプローチ
15.LGBTをめぐる諸問題と福祉心理学からのアプローチ
16.定期試験

使用教科書名

NO. 4051507　　精神保健福祉特論

中島　直行

授業科目概要・教育目的（履修条件）

受動的に講義を聴くのではなく、学生自身が主体的に資料に向き合い、課題を発見しまとめる力を育成する。

学習目標・到達目標

精神医療・保健・福祉における現状と課題について、専門家や病気の当事者の手による原著や資料を学生自身が主体的に読み込みまとめる作業を通して、本質理解に到達できることを目標とする。

準備学習

評価方法その他

出席、学習への参加態度、発表、レポートなどを総合して評価する。

週　テーマ・授業目標等

週・テーマ・授業目標

1 人類の歴史と狂気(正常と異常)

2 精神障害者の処遇の歴史(西欧)

3 〃 (日本)

4 精神科医療の現状と課題

5 精神障害者支援の現状と課題

6 精神保健福祉の新しい課題と展開

7 資料購読(1)(呉秀三「精神病者私宅監置の実況及びその統計的考察」)

8 〃 (2)(〃)

9 〃 (3)(大熊一夫「ルポ精神病棟」)

10 〃 (4)(〃)

11 〃 (5)(石山 勲「幽閉」)

12 〃 (6)(〃)

13 〃 (7)(小林美代子「髪の花」)

14 〃 (8)(〃)

15 レポート作成

16 テスト(レポート提出)

使用教科書名

NO. 4051509　　福祉と数理特論

千葉　一博

授業科目概要・教育目的（履修条件）

数理的な考え方を復習し，またゲーム理論の基本的な考え方を理解して福祉の文脈に応用する．さらに，統計に関する基礎を復習して福祉に関係する指標について考える．

学習目標・到達目標

福祉を数理的に考えることができる．

準備学習

必ず授業の復習をすること．

評価方法その他

平常点(40%)，定期試験(60%)
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週　テーマ・授業目標等

1. 数式

2. 条件判定の関数 IF

3. ゲーム理論

4. ナッシュ均衡

5. 近所トラブル

6. 囚人のジレンマ

7. 共有地の悲劇

8. 公共財

9. フリーライダー

10. いじめ

11. 社会統計

12. 格差

13. ローレンツ曲線

14. ジニ係数

15. 年金

16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない．

NO. 4051510　事例研究法

髙橋　幸三郎

授業科目概要・教育目的（履修条件）

この授業では、身近な出来事についての情報を集めて理解するための力を養成します。調査に対するイメージを豊かにしていくために、DVDなど視覚教材を用います。受講者の課題意識を重視した出来事（社会事象）について、先行文献や聞き取りなどを用いて考えていきます。

週　テーマ・授業目標等

①事例研究とは（イメージを明確にしよう）
②3つの社会調査の方法
③社会調査と事例研究
④基本技法：観察法Ⅰ
⑤基本技法：観察法Ⅱ
⑥基本技法：面接法Ⅰ
⑦基本技法：面接法Ⅱ
⑧基本技法：問いを立てるⅠ
⑨基本技法：問いを立てるⅡ
⑩ライフヒストリーの調査Ⅰ
⑪ライフヒストリーの調査Ⅱ
⑫データ分析法Ⅰ
⑬データ分析法Ⅱ
⑭事例研究に関わる同意と倫理
⑮レポート作成マニュアル
⑯レポートの報告と意見交換

学習目標・到達目標

①事例研究の基本を理解する
②身近な出来事を基本技法を用いて理解する
③基本技法を用いて出来事を説明する
④基本技法を用いてレポートを作成する

準備学習

授業概要に示したように、身近に感じている関心や疑問を持って授業に参加することを望んでいます。

評価方法その他

期間内に提出したレポート（70%）
積極性・報告する力（30%）

使用教科書名

授業中にプリントを配布します。

NO. 4051001　人間生活学特別研究演習１

全指導　教員

授業科目概要・教育目的（履修条件）

履修コース別の専門分野及び関連分野の学修成果をまとめてゆくために、1～2年次を通じて演習を行う科目として開講する。主たる指導教員を中心に個別指導を受け、生活文化に関する幅広い視野も基に、専門分野における研究又は作品制作等について総合的に学ぶとともに、修士論文・作品等への結びつける。その第一段階として、研究内容と方法など研究計画を具体化するための指導を受ける。

週　テーマ・授業目標等

1. 演習の目標と日程・内容の概要
2. 修士課程における研究論文・作品制作の目標
3. 問題意識に基づく研究(制作)課題の仮説
4. 仮説課題に基づく研究(制作)テーマ・内容・方法の検討
5. 既往研究事例の収集(1)
6. 既往研究事例の収集(2)
7. 既往研究事例に見られるテーマ・内容・方法と結果の関係分析(1)
8. 既往研究事例に見られるテーマ・内容・方法と結果の関係分析(2)
9. 資料の収集・整理の方法検討
10. 資料の予備的収集・整理(1)
11. 資料の予備的収集・整理(2)
12. 資料の予備的収集・整理(3)、研究(制作)

内容と方法の具体化(1)
13. 資料の予備的収集・整理(4)、研究(制作)

内容と方法の具体化(2)
14. 資料の予備的収集・整理(5)、研究(制作)
内容と方法の絞り込み
15. 研究(制作)目的・内容・方法の詳細検討、計画の策定

学習目標・到達目標

準備学習

評価方法その他

出席：15%　レポート：50%　個人面談：35%

使用教科書名

指導教員の指示による。

NO. 4051002　人間生活学特別研究演習２

全指導　教員

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生活文化特別研究演習1を通じて策定した研究計画に基づいて、文献収集、観察記録、社会調査、実験などの方法を定めて資料収集し、解析を始める。途中経過の中間発表を行い、質疑応答内容を参考にして必要があれば研究計画の部分修正を図り、テーマを確定させる。履修条件は、生活文化特別研究演習1を履修していること。

週　テーマ・授業目標等

1. 演習の目標と日程・内容の概要、目次案の作成方法
2. 目次案の仮作成
3. 中間発表方法の要点
4. 第1回中間発表会準備(1)発表会提示資料構成の検討
5. 第1回中間発表会準備(2)発表会提示資料の作成
6. 第1回中間発表会
7. 研究(制作)目的・内容・方法の再検討
8. 資料の収集・整理(1)
9. 資料の収集・整理(2)
10. 資料の収集・整理(3)、解析の方法
11. 資料の収集・整理・解析、解析結果の要約(1)
12. 資料の収集・整理・解析、解析結果の要約(2)
13. 資料の収集・整理・解析、解析結果の要約(3)
14. 資料の収集・整理・解析、解析結果の要約(4)
15. 研究(制作)目的・内容・方法の詳細確定

学習目標・到達目標

準備学習

評価方法その他

使用教科書名

指導教員の指示による。

NO. 4051003　人間生活学特別研究演習３

全指導　教員

授業科目概要・教育目的（履修条件）

生活文化特別研究演習1～2において蓄積した資料の整理・解析を本格化させ、まとめへ向けての筋道を明らかにするための指導を受ける。第2回中間発表会の議論に基づいて、必要があれば資料の補足を行う。履修条件は、生活文化特別研究演習1・2を履修していること。

週　テーマ・授業目標等

1. 演習の目標と日程・内容の概要、目次案の見直し
2. 資料の収集・整理・解析、解析結果の要約(5)
3. 資料の収集・整理・解析、解析結果の要約(6)
4. 資料の収集・整理・解析、解析結果の要約(7)
5. 解析結果の図表化・文章化や作品への展開方法(1)
6. 解析結果の図表化・文章化や作品への展開方法(2)
7. 解析結果の図表化・文章化、作品への展開(1)
8. 解析結果の図表化・文章化、作品への展開(2)
9. 解析結果の図表化・文章化、作品への展開(3)
10. 解析結果の図表化・文章化、作品への展開(4)
11. 解析結果の図表化・文章化、作品への展開(5)
12. 解析結果の図表化・文章化、作品への展開(6)
13. 第2回中間発表会の準備(1)発表会提示資料構成の検討
14. 第2回中間発表会の準備(2)発表会提示資料の作成
15. 第2回中間発表会

学習目標・到達目標

準備学習

評価方法その他

使用教科書名

指導教員の指示による。